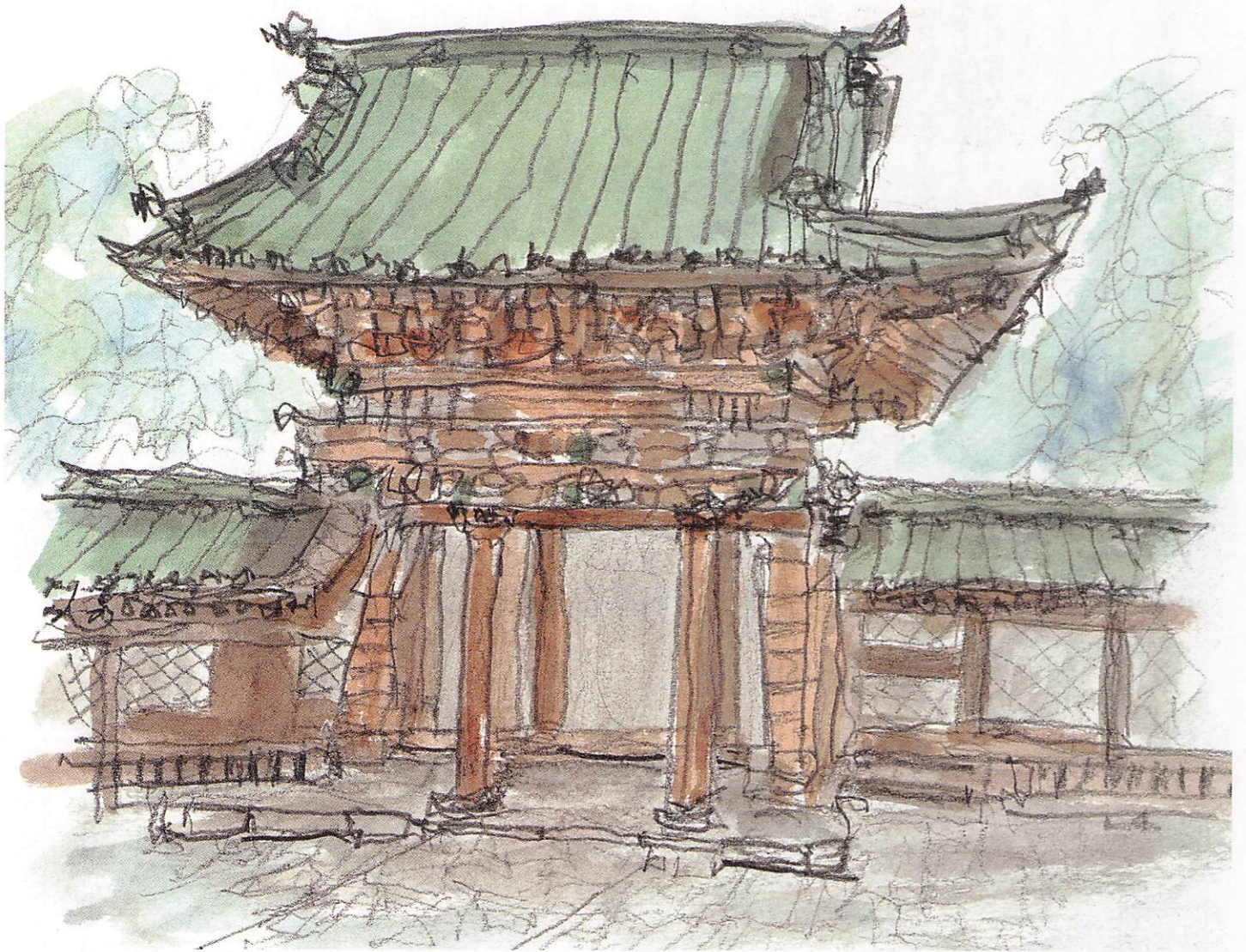


# 傳習館



東京同窓會會報

第6号 2006.1.1



平成18年度東京同窓會總會のご案内

知らなかった大先輩  
-戦艦大和の艦長伊藤整一提督-  
この一撃で歴史が動く、喝だ！

ふるさと瓦版  
伝えておきたいことども

## 三柱神社の火災と再建について

2005年6月3日、心無い者の放火により、藩祖道雪公、立花宗茂公、閻千代姫を祭る神社の拜殿、廻廊が全焼。楼門も一部焼けるなど歴史的価値のある建物が大きな被害を受けました。幸い本殿は焼失を免れましたが、元の姿に復現するには、大変な時間と費用がかかります。

柳川・山門・三池教育会編纂による旧柳川藩史によりますと、天明3年(1783年)に道雪公が梅岳霊神の神号を授けられ、長久寺境内に祭られ、文政3年(1820年)に宗茂公、閻千代姫がそれぞれ、松陰霊神、瑞玉霊神の神号が授けられると、日吉神社の近くに仮宮を設けそこに祭られました。この3霊神を一緒に祀りする現三柱神社は、文政8年(1825年)に地鎮祭を行い、翌年1826年2月11日に新殿が落成しています。

前述の資料によりますと、「この工事を始むるに、まず大工棟梁を嚴島、日光等に派遣し、社殿の規模の視察せしめ、之が構造を考案して楼門、廻廊等をつくらしむ」とあります。

また工事中は、「遠近を問わず、老若男女鼓笛太鼓の三弦の音曲を用ひ、争い來たりて之を助く。為に日々殷賑を極めたり」と藩をあげての建設工事だったことがよくわかります。

このようにして、建てられた神社は本社拜殿、廻廊等の屋根は全て赤銅で葺き、楼門のは特に精巧な作りになっています。

これから、復興のためのマスタープラン作り、募金活動に入っていきますが、私も全面的に応援をしてみたいです。幸い、関係者の御協力により、焼け跡での部材の実測が行われ、建物の姿は図面として複製出来るようですので、私としては、この歴史的建造物を時間が5年6年かかろうが是非元の優雅な姿に復元して欲しいと願っています。

2005年10月 立花家17代 立花宗鑑

### 表紙書 題字

題字は母校伝習館に掲出してある創立者立花鑑賢公の書の扁額の文字を、会長の江崎正直氏(高2)が臨書したものだ。

### 表紙絵 「三柱神社の楼門」について

田中茂

平成十七年三月二十四日三柱神社社殿前よりスケッチした。三柱神社のシンボル、楼門も今はない。三柱神社と言えは、「オニギエ」「ドロツクドン」を思い出す。

夜店のアセチレンガス灯の匂い、ニッキ飴、木下サーカス、何故か日光写真、大道芸人、蛇使い、等々。

三柱宮水照繁なる石段に

瑠璃の小蟹ささと音あり

白 秋

殿の紋紙圍守りを水草の

何の花かとわれら夢みき

白 秋

### 略歴

昭和七年

柳川市旭町生まれ

二十六年

伝習館高校卒業

三十年

九州大学工学部電気工学科卒業

同

九州電力株式会社入社

五十六年

同社総合研究所配電担当次長

六十年

九州電技開発株式会社常務取締役

平成七年

同社退職

### 画暦

我流で気ままに絵日記のつもりで水彩画を描く。絵を描くときのモットー「下手も絵のうち」。退職後九電OB絵画同好会入会。現在九州電気協会発行月刊誌「電気と九州」表紙絵担当  
好きな画家、松本俊介、三岸節子、香月泰男、デュフィ

### 三柱神社 楼門の詩

小野斜庵

君をクレパスで描いた  
遠い日の小学校の写生大会  
拙い絵が教室に掲げられた  
恥ずかしかった

芥川の羅生門  
黒沢の羅生門  
君を想った

柳川を離れる日  
君に会いに行つた  
君は

「しつかりナ！」  
と言ってくれた

柳川に帰省した日  
君に会いに行つた  
君は

「頑張ってるナ！」  
と言ってくれた

柳川にもう住まないと決めた日  
君に会いに行つた  
君は

「お互いに老けたナ！元気でナ！」  
と言ってくれた

柳川に帰つても

もう君に会えないという

でも

俺の中には君はずーっと 在る！

# 第6号 2006.1.1

## 東京同窓会本部より

会長平成18年年頭の挨拶	会長 江崎正直	2
着任御挨拶	横山貞継	2
進路実績		3
平成18年度東京同窓会総会のおしらせ		3
同窓会決算収支報告書		4
賛助金ご協力状況報告		4
賛助金振込票通信欄コメント紹介		7
東京に輝ける三稜の星たち	副会長 松永 肅	11

## 先輩・後輩より

知らなかった大先輩	中56 松本一郎	13
この一撃で歴史が動く、喝だ!	高1 横山二三男	14

## 学年幹事より

昭和30年卒・6回生 三稜会の報告	高6 石橋 修	16
報告	第10 永倉素子	17
『くっぞこ会』	高12 井上功夫	17

## ふるさと瓦版

三瀨町の民話・伝説		18
瀬高町・山川町・高田町合併協議会スタート		18
田中さん「筑後柳藩の戊辰戦争」を出版		18
船小屋ゲンジボタル発生地		19
北原大莞彫刻展		19
野口氏が古賀政男肖像画おくる		19
三柱神社再建		20
大川市新市長誕生!		20
誌上美術館		20
琴奨菊関が観光大使に就任		20
昭和30年がよみがえる映画2本		20
刊行案内		21

## 伝えておきたいことども

私立県立両伝習館に関する思い出の事ども	立花政樹	22
『白雲なびく』より	中56 石川輝雄	24
募集		28
編集後記		28

# 傳習館



# 東京同窓會會報

# 東京同窓会本部より

## 会長平成 18 年年頭の挨拶

東京同窓会の発展を願って

伝習館東京同窓会 会長 江崎正直

会員の皆さん！ 健やかに新春を迎えられたことと存じます。今年も健康第一で行きましょう。

会報は年二回発行の意気込みで出発しましたが、昨年は年一回しか発行できませんでした。賛助金不足によるものです。賛助金という表現を使っているものの、実質は年会費であります。会費といえば皆さん方に強制的な感じを与えることとなります。それより自発的な献金とした方がよかろうと、賛助金の名目で皆さん方のご好意を期待しました。会報の発行には一回に百万円かかります。一口二千円の賛助金を、二千五百名の会員全員が振り込んでいただきますと五百万円となり、会報を二回発行しても充分おつりがきます。初年度の平成十五年は五五一名の方にご賛同いただき、これなら行けると思いましたが、翌十六年の賛同者は二六六名に半減してしまい、年二回発行が不可能となってしまいました。これを改善すべく去る四月、会員の皆さんに賛助金の納入について特別のお願いをしましたところ、五〇〇名以上の方にご協力頂き、今年では会報二回発行の目処がつかしました。有り難うございました。会員の二〇%以上のご賛同がなければ、会報年二回発行は実行できないことをご認識頂き、賛助金の納入に毎年ご協力いただくようお願いいたします。

今年では隔年ごとの総会の年に当たります。来る七月九日（日）ホテル・グランドパレスで盛大に挙行したいと思っております。講演会や柳川物産展なども予定されており、一名でも多くのご出席をお待ちしています。老若男女、会員相互交流の場になることを願っています。

今年も二月一日（水）伝習館二年の修学旅行生を受け入れる予定にしています。少子化時代、生徒数が減ってきているのはやむをえないとして、少数精鋭になることを期待しています。

今年では活気ある同窓会の年にしたいと思っておりますので、皆さんのご協力をお願いします。

### 着任御挨拶



校長 横山 貞継

昨年四月、創立一八二年、県立移管一二年の歴史と伝統を誇る本校に赴任して参りました。光栄に存じます。前任の荒木裕幸

校長先生は福岡県教育委員会の主幹指導主事として転任されました。

私は昭和五十四年四月から平成七年三月まで十六年間、本校に勤務いたしました。その間、卓球部顧問として、県上位入賞と勉学との両立を部の目標に掲げ、励みました。運営委員（主任）を十一年間努めました。そのため、本校には特別の思い、愛着があります。本校の一層の発展、充実に全力を尽くして励みたいと思っております。東京同窓会の皆様、よろしく御愛顧、御指導をお願い申し上げます。東京同窓会の皆様には、母校の教育振興のために御支援を賜り、厚くお礼申し上げます。とくに、二学年の修学旅行での課題別研修では江崎会長様をはじめ東京同窓会の方々に御指導と御世話をいただき、心から感謝しております。同窓会の皆様方の母校への御厚情に衷心より感謝申し上げますとともに、東京同窓会の方々の御健勝と御活躍を祈念申し上げます。着任のご挨拶とさせていただきます。

訃報



東京同窓会前会長 江口 三千雄様には  
 平成17年8月20日ご逝去されました。  
 享年94歳の由。  
 心からお悔やみ申し上げ、  
 ご冥福をお祈り申し上げます。

平成17年3月進路実績

国公立大学等合格者

■主な合格先

東北大	1	九州大	19
茨城大学	1	九州工業大	5
筑波大	1	福岡教育大	6
千葉大	1	佐賀大	31
東京外語大	1	長崎大	9
東京学芸大	1	熊本大	14
お茶の水女子大	1	大分大	2
横浜国立大	2	宮崎大	3
静岡大	1	鹿児島大	8
京都大	2	北九州市立大	5
大阪大	1	福岡県立大	1
神戸大	1	熊本県立大	1
広島大	6	防衛大学校	4
山口大	4		

私立大学合格者

■主な合格先

青山学院大学	6
慶應義塾大学	4
中央大学	7
東京農業大学	1
東京理科大学	12
日本大学	5
法政大学	6
明治大学	6
早稲田大学	8
同志社大学	28
立命館大学	65
関西大学	12
関西学院大学	7
西南学院大学	72
福岡大学	139
筑紫女学園大学	2
中村学園大学	11
久留米大学	30

公務員

■主な合格先

国家三種	1	大阪市職員	1
東京都職員	1	大木町職員	1

平成18年度 伝習館東京同窓会 総会のおしらせ

隔年開催の同窓会総会を下記により開催します。  
 皆様お誘い合わせの上郷土柳川を語り合う同窓会に  
 多数ご参集いただきますようお願いいたします。

日時：平成18年7月9日（日）  
 受付10時30分より  
 場所：ホテル グランドパレス  
 会費：10,000円  
 （飲食費のほか通信費、  
 会場費等含みます）

当日は講演会（講師は交渉中）、  
 お楽しみ抽選会、柳川物産即売会等企画しております。

ふるさと なまり  
 柳川の方言なつかし同窓会  
 久しかぶりの顔・顔・あなつつあん

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

科目	金額	科目	金額
収入の部		支出の部	
普通賛助金	1,546,000	会報制作費一式(4・5号)	1,507,800
広告賛助金	20,000	会報送料一式(4・5号)	534,926
16年度同窓会収益金	64,762	会報別途送料及び郵便料	45,010
		柳川での伝習館同窓会総会への広告料	40,000
		柳川市観光カレンダー	23,000
		同窓会ホームページ管理費	15,000
		16年度総会会費へ振替(誤入金分戻し)	48,000
		学年幹事会会議費補助	12,942
		郵便振込手数料	20,660
		印字サービス料	5,690
		16年度総会写真代	3,563
当期収入	1,630,762	当期支出	2,256,591
前期繰越金	1,017,600	次期繰越金	391,771
計	2,648,362	計	2,648,362

繰越預金残高 75,110  
繰越現金残高 316,661

## 【賛助金ご協力状況報告】

平成16年11月1日から平成17年10月31日まで

卒回	氏名
高12	広永加代子
高12	田中省三
高12	梅崎哲哉
高13	田中利通
高13	齋田宗生
高13	常田益子
高13	山田孝輝
高13	古賀博義
高13	龍英彦
高14	吉田節子
高15	大村隆秀
高16	椛島正司
高16	田中文夫
高17	三池孝道
高17	跡部與志
高19	芹川季代子
高19	志牟田悟
高20	藤丸昭徳
高21	白谷政則
高21	中村光男
高22	梅崎徳孝
高23	武藤友次
高24	酒見和平

卒回	氏名
高5	沖美津正
高5	岸栄洋
高5	原田和幸
高5	古賀弘
高5	松永肅
高6	江崎逸夫
高6	戸上軍治
高6	荻島直記
高6	木村峯子
高6	吉武虎一郎
高6	臼杵律子
高6	平木公美
高6	島添静思
高7	宮地厚生
高9	奥井洋輝
高9	山下恒吉
高10	原田智昭
高10	立花寛茂
高10	内山秀生
高11	徳永雄三
高11	池上勝之
高12	葉玉真記
高12	江口克典

卒回	氏名
女31	跡部愛子
女34	古賀弘子
女37	岡田常子
女46	藤吉智子
高1	輿田博利
高1	輿田博利
高1	松藤惟
高1	石橋俊彦
高2	吉川良平
高2	小野善睦
高2	田中茂
高2	江頭孝夫
高2	水上富美子
高2	山下武
高2	江崎洋二郎
高3	北原瑞夫
高3	福山諭
高3	木村澄子
高3	新谷弘之
高3	田中初音
高5	江口政司
高5	金納和市
高5	田中禮二

卒回	氏名
協賛50口	
高2	江崎正直
協賛25口	
高3	黒瀬澄子
協賛15口	
高1	津村きよみ
高4	倉本博子
高伝1	坂井弘毅
協賛10口	
高1	永江政勝
	大城千代子
高4	匿名
高7	古賀日出夫
協賛5口	
中47	徳永樹夫
中47	徳永樹夫
中48	宮本弘道
中51	今村忠志
中53	古賀和典
中54	武藤吉郎
中54	武藤吉郎
中55	江崎和夫
中55	津末臺

卒回	氏名
高21	柿野貴美子
高23	樋口貴美子
高27	箴島洋敏
高28	川口進
高28	吉開孝人
高29	西川正子
高30	川口文代
高38	荒巻能史
高17	下吹越智佳子
協賛1.25口	
高35	松石香洋子
高40	松石香織子
協賛1口	
中36	山崎年夫
中38	高棕正男
中42	吉原稔
中42	山口隆義
中46	内山田敦
中46	西村享兒
中46	内山田敦
中47	江口武
中47	松尾讓
中47	藤木生雄
中47	永江啓二郎
中49	淡輪晋
中49	森田安人
中49	松尾淳
中49	長崎哲夫
中50	田辺一彦
中51	野口治人
中51	塚本和吉
中51	許斐淳司
中52	富安喜久司
中52	上田三二生
中53	深町昌弘
中53	青野雅哉
中54	山田道保
中54	富重克己
中55	馬場淳三郎
中55	高巢和夫
中56	成清良孝
中56	井関義久
中56	江頭庄八
中56	成清良孝
中56	松本一郎
女41	森脇ツル子
女47	福井ツヤ子
併中2	石川遠弥
中伝1	横山二三男
高伝1	十時吉衛
女23	藤木マキ
女26	大城俊
女31	跡部愛子
女31	林チセ
女33	木下チヲ
女34	飯島ふじ子
女34	椀島輝子
女39	杉野葉香
女41	吉武セツ子
女41	佐伯淑子
女41	五十嵐八千代

卒回	氏名
高3	石橋榮一郎
高3	塚田時子
高4	塚本行平
高5	倉林千鶴子
高5	鈴木妙子
高5	高橋絹子
高6	佐藤春美
高6	藤丸武
高6	西山悦子
高6	菊次伸子
高7	石橋一徳
高7	野林修
高7	龍久則
高7	松永泰輔
高8	森健
高8	本木寅三郎
高9	石橋淑子
高9	福山幹子
高9	橋本忠彦
高10	大淵静夫
高10	東辰子
高10	永倉素子
高10	平野善行
高11	石橋秀男
高12	石田佳代子
高13	古賀誠三
高13	進藤達実
高13	吉川年行
高13	吉開正信
高14	松尾チ工子
高14	浜尾淑江
高14	平野晴子
高17	跡部與志
高18	中村易世
高20	塩田佳世
高21	栗原きよみ
高21	分部三枝子
高21	千代島道生
高22	龍美代子
高31	野田久雄
高31	田中晃二
高34	志岐武司
	堤フミ枝
協賛1.5口	
中41	高戸顕隆
中52	大内礼三
中55	木下宗治
中55	小泉祐一郎
女35	原ヒサ子
高3	西山彰
高3	田中穂積
高5	家入智恵子
高6	井手真
高7	久良木博道
高7	米永勝至
高8	坂口加津代
高9	石瀬籌子
高12	小畑妙子
高12	野田幸治
高13	西雅治
高16	原田昭二

卒回	氏名
高5	中村義行
高5	津村寿人
高5	中村裕彦
高5	田中起市
高5	津留清水
高6	井上弘子
高6	服部尚子
高7	龍弘道
高8	川口融
高8	池田孝人
高8	川口融
高8	鶴田千恵子
高8	樋口誠祐
高8	檜山宗子
高8	大村泰生
高8	鳥巢厚子
高8	入部一郎
高10	相浦竹年
高10	石橋邦博
高10	川口圭之
高11	大淵廣記
高11	龍勝
高11	星野公代
高12	井上功
高12	石井芳文
高13	原田万紗子
高13	近堂玖美子
高13	甲木久美
高13	龍秀毅
高14	中ノ森重義
高14	今泉京子
高14	堀勝義
高15	執行紹代
高15	菅原佳子
高16	松延日出美
高16	河野和子
高18	川口苦楽
高19	田中由起子
高23	樋口貴美子
高23	成田八重子
高24	山田直美
高26	川口加代美
高27	江崎友人
	堤フミ枝
協賛2口	
中44	三砂安記
中53	吉岡昭三
中53	浦川浪来
中53	高田泰
中53	福村幹夫
中53	木下憲男
高伝1	中島実
高伝1	野田制
高伝1	永井俊一
女40	安東眞佐子
女47	作山ミツ
女併2	松崎美年子
高2	北原大董
高2	辻三二
高2	添島幸雄
高2	鬼丸敦美

卒回	氏名
高27	高橋圭介
高28	松藤義生
高34	柳内真理子
協賛4口	
高1	淵上茂
高22	田島栄子
協賛3.5口	
高12	小野アケミ
高24	青木俊也
協賛3口	
中51	椀島康任
中56	菊次愛咲
中56	鬼丸敏雄
女30	桜井正子
高1	近藤紀
高6	中村充
高6	宮前主税
高7	田中敬之助
高7	下田敬子
高8	永倉正彦
高9	伊東徹
高10	高島早苗
高10	石橋博史
高13	坂田幸子
高23	古賀恵子
高26	平田尚子
高35	古賀栄策
協賛2.5口	
中45	北島年夫
中49	木村弘
中49	堀江智教
中50	末松恭介
中50	廣松親弘
中52	原田英治
中55	諸藤寿
中55	武藤徳一
中55	吉弘尚正
中56	金森隆茂
高伝1	梅崎俊行
女34	古賀弘子
女39	壇ヨソ子
女39	壇ヨソ子
女40	山田チテ
女41	渋谷敏子
女44	宝珠山福代
女45	成瀬清子
女46	木村真知子
女46	古賀弘子
女併1	川上寿美子
高2	石橋慶孝
高2	廣松敏克
高2	石崎知見
高2	井上和子
高2	城戸カメノ
高2	森清
高2	松尾哲夫
高3	与田多美子
高3	古賀洋一
高3	志牟田徹
高4	池上正則
高4	加賀田昇

卒回	氏名
高19	梅崎 せつ子
高19	森田 達雄
高20	近藤 敬介
高20	諸藤 由美子
高20	浦川 直実
高20	古賀 栄樹
高20	中村 智恵子
高20	井口 ちづ子
高21	立石 曜子
高21	添島 茂美
高21	蓮尾 秀子
高21	古賀 行子
高22	田島 栄子
高22	藤吉 克博
高23	竹内 幸代
高23	佐竹 優子
高23	下田 真知子
高23	平田 真理夫
高23	坂本 智臣
高25	相田 英子
高26	野口 佳延
高26	長野 智治
高26	大前 由美
高27	松籐 峯成
高27	原 武生
高27	熊井 健
高27	東矢 真由美
高28	石橋 孝一
高28	田中 尚子
高28	大坪 みどり
高30	黒崎 尚子
高30	中野 徳子
高32	咲村 あかね
高32	石橋 孝男
高32	合原 嘉男
高33	井上 賢二
高33	岩上 二三子
高37	若尾 奈実子
高37	若尾 奈実子
中56	石川 輝雄

(1口 2,000円)

卒回	氏名
高10	森田 節子
高10	相浦 英子
高11	秋永 栄子
高11	原尻 満子
高11	平田 恵美子
高11	吉川 照子
高11	会田 道子
高11	笹沼 トシエ
高11	内田 千恵子
高11	田島 龍子
高11	佐薙 輝代子
高11	近藤 素子
高11	木下 淑子
高11	駒田 サヨ子
高11	原尻 満子
高12	横田 博章
高12	馬場 敦子
高12	谷本 玲子
高12	村上 国子
高12	城戸 ケイ子
高12	峯本 昭子
高12	馬場 敦子
高12	古賀 アヤ子
高12	鈴木 弘子
高13	石橋 正通
高13	田中 広征
高13	後藤 民子
高13	原 伸
高13	田中 広征
高13	渡辺 俊子
高13	鎌田 昭子
高13	荒木 美智子
高13	中島 弘子
高14	大村 陽子
高14	桜井 幸子
高14	志田 和子
高14	岡 田鶴子
高14	水口 美年子
高14	松岡 健次郎
高14	松岡 健次郎
高15	後藤 民子
高15	一木 克子
高15	小河 良充
高15	岩崎 雅子
高16	坂口 道子
高16	角町 正利
高16	高柳 陽子
高16	高棟 正民
高16	近藤 悦子
高16	田中 千鶴
高17	三池 孝道
高18	石橋 純一
高18	三橋 一美
高18	石橋 佐代子
高18	福山 博彰
高18	吉田 シヅカ
高18	井上 妙美
高18	黒田 芳憲
高18	古賀 幸夫
高18	石橋 佐代子
高18	井口 文章

卒回	氏名
高5	松尾 久子
高5	近藤 正彦
高5	武田 八重子
高5	酒井 弘子
高5	野口 幹彦
高5	宮川 政實
高5	今村 直
高5	黒田 勇
高5	加藤 隆爾
高5	松永 悦子
高6	甲木 康博
高6	石橋 修
高6	梅崎 元也
高6	森 時子
高6	池田 勝嗣
高6	甲木 康博
高6	本間 洋子
高6	城戸 実
高6	待鳥 清治
高6	徳永 剛一
高6	森 清旨
高6	内田 真澄
高7	浜野 弘子
高7	田中 健次
高7	松本 英三
高7	中澤 貞夫
高7	大藪 成人
高7	具島 和子
高7	古賀 日出雄
高7	浜野 弘子
高8	内田 由美子
高8	川崎 悦子
高8	嶋本 幸子
高8	藤好 亨
高8	与田 芳樹
高8	池上 藤則
高8	後藤 亨
高9	古賀 昭夫
高9	榎橋 悠紀
高9	福島 たか子
高9	斎藤 マスミ
高9	木村 眞弓
高9	田代 佳子
高9	高口 猛
高9	原田 光紀
高9	原田 久美
高9	北原 久也
高9	古賀 弘子
高9	松井 聰二郎
高9	下河 文子
高9	堤 泰充
高10	椛島 悠之
高10	大島 喜代子
高10	井上 紀子
高10	古賀 雄次郎
高10	岩井 美江子
高10	内野 恵美子
高10	古賀 マツエ
高10	古賀 ミユキ
高10	篠原 弘子
高10	水田 ツイ子

卒回	氏名
女42	富重 信子
女42	遠藤 美代子
女42	寺田 ソエ子
女44	後藤 由起子
女45	板井 敏子
女45	松尾 道子
女45	長崎 和代
女46	片桐 悦子
女46	武井 遊亀子
女46	中島 千恵子
女47	高巢 愛子
女47	石井 日出子
女47	松永 征矢子
女47	小林 澄江
女47	鈴木 美枝
女48	北原 留美
女48	牧野 英美子
柳女1	河野 富美子
高1	古賀 定愛
高1	高橋 満之
高1	中野 妙子
高1	本島 宏
高1	高木 陽二
高1	美甘 弥生
高2	田中 豊子
高2	平川 智
高2	大橋 貞夫
高2	古賀 苦住
高2	内藤 美弥子
高2	松平 隆子
高2	河野 健一郎
高2	松尾 哲夫
高2	諸藤 繁樹
高2	増田 勝彦
高2	井坂 洋子
高2	上飯坂 清子
高3	臼井 ヒロエ
高3	一郡 辯
高3	田島 順次
高3	酒井 清行
高3	樽見 真治
高3	大旗 康文
高3	前田 雅子
高3	臼井 ヒロエ
高3	村井 タカ子
高3	松竹 紀子
高3	柳沢 一彦
高3	近藤 宣夫
高3	藤木 豊子
高3	白井 朗
高3	高木 邦介
高3	前田 雅子
高4	緒方 常子
高4	大久保 淳子
高4	石橋 安男
高4	津留 恒子
高4	松藤 清春
高4	土屋 怜子
高4	内菌 たつゑ
高4	大淵 弘幸
高5	原 タカ子



# 伝習館東京同窓会賛助金 振込票通信欄コメント

敬称略

中学56回卒 成清良孝  
このたびも 貧者の一灯 年明く

高校9回卒 古賀昭夫

三浦雄一郎氏の70才エベレスト登頂への克己心、準備訓練の話から昭和ひとけた生まれの戦史記（私は原爆の爆心地近くの広島郊外にいて伝習館へ爆弾投下があったことは知らなかった）、肩のこらない先輩後輩の話等大変興味深く読ませて頂きました。編集の方々の御努力に敬意と感謝をします。

中学50回卒 末松恭介

同窓会賛助金25口分納入します。  
会報5号有難うございました楽しく読んでおります。

高女42回卒 富重信子

1口で少ないですが失礼します。  
中学45回卒 北島年夫

いつもお世話いただきましてありがとうございます。同窓会報を読むのが楽しみです。

編集委員の皆様ご苦勞様です。感謝の気持ちを送らせていただきます。

中学47回卒 徳永樹夫  
会報5号有難うございました。会報によって母校や郷土の今昔を知ることができて毎号楽しく拝読しています。

同窓会幹部並びに編集委員の皆さんのご苦勞に心から御礼申し上げます。

す。  
中学52回卒 富重喜久司  
賛助金として  
高校2回卒 江崎正直  
「継続は力なり」を会報でも実行しましょう。

高校7回卒 浜野弘子  
高校7回卒です。  
会報第5号有難うございました。毎回なつかしく拝読いたしておりました。

高校8回卒 森 健

会報を発行するには並々ならぬ努力がいると思います。関係者諸氏に感謝します。

高校11回卒 秋永栄子

会報いつも楽しみに拝見しております。

高校19回卒 田中由起子

会報いつもありがとうございます。

ごぶさたばかりで申訳ありません。

高校28回卒 田中尚子  
毎号楽しく拝読しております。

慌ただしい毎日の中で、会報がおくってきたときは、何かしら時間が戻った気がします。

高校12回卒 小畑妙子

事務局の皆様 会報の送付誠にありがとうございます。

楽しく拝見させて頂いております。

す。裏方の御苦勞が忍ばれる思いです。  
ご自愛の程お祈りします。些少で申し訳有りません。

高校24回卒 山田直美

ごぶさたしております。

会報はなつかしく、くり返し読み、自分でおかしくなり笑っています。

ありがとうございます。  
中学54回卒 武藤吉郎  
私は伝習館同窓会副会長の武藤吉郎（中学54回卒）であります。

先日は伝習館東京同窓会会報第5号をご送付頂きありがとうございます。

さて、平成16年度東京同窓会総会が会員184名（福岡支部に次ぐ）の出席の中盛會に開催されました事を心からお慶び申し上げます。今後共江崎会長さんを中心に伝習館東京同窓会の更なる充実とご発展をご祈念します。又少額で誠に恐縮ですですが、ご笑納下さい。

高校18回卒 中村易世  
第5号の岡田哲也さんの「定年ボランティア奮闘記」の中の「ぞーたんのゴツ」には吹き出してしまいました。柳川弁のパワー恐るべし……。

高校27回卒 松藤峯成

清水寺三重の塔の写真を拝見し、大変懐かしく思いました。この場所へは、何回もあしを運んだ記憶があります。

中学56回卒 井関義久

賛助金1口（貧者の一灯。）  
謹賀新年。

高校3回卒 一郡 辯

柳川高女卒  
母 一郡タツノ98才  
平成15年6月23日死去

高校5回卒 中村義行

第5号会報有難うございました。東京同窓会の益々の発展と会員各位のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

高校10回卒 相浦竹年

夫婦ですからどちらかに伝習館の同窓会報を送って下さい。（一通で

よいのです）会費を一人いくらと目安が記入していないとわからず困ります。

高校16回卒 梶島正司  
毎回内容の充実に感謝しております。

現役の方にも読んでもらいたいですね。

高校2回卒 吉川良平

第5号の同窓会々報お送り有難うございます。編集の皆さまのご盡力により郷里の情報を楽しく読ませて頂きました。

高校16回卒 松延日出美

会費はさておき、会報ばかりを懐かしく拝読し楽しんでおりました。申し訳ありませんでした。お世話の方々に御礼申し上げます。

高校13回卒 西雅治

東京同窓会会報第5号ありがとうございます。ございました。編集委員の皆様本当にお世話様です。

懐かしい故郷の最新情報など読ませて頂きました。これからも楽しみにしておりますし、次回東京同窓会には出席したいものです。会報作成費の一部にさせていただきます。

高校5回卒 金納和市  
江崎会長はじめ役員の方々ご苦勞さまです。

（会報）遠い思い出有難うございます。

中学53回卒 吉岡昭三  
会報、楽しく読ませていただいています。

高校6回卒 戸上重治

江崎会長をはじめ幹事の皆様ご苦勞様です。毎回の会報紙ありがとうございます。特に今回第5号のふるさと瓦版は懐かしく楽しく拝読させていただきます。

て戴きました。同期、岡田哲也君のシリーズ、ギリシャあれこれも楽しみにしております。編集の方々に感謝！

高校20回卒 塩田佳世

読みながら何回も吹き出してしまいました。そんな経験最近ないですね。又、現在スポーツ界、芸能界で頑張っている柳川出身の方が結構いるのに驚きました。次回が楽しみです。

中学51回卒 梶島康任

いろいろ御世話様です。会報有難く拝見して居ります。会員皆様の御多幸を御祈りします。

高校9回卒 福島たか子

江崎会長の挨拶の言葉を読みました。東京同窓会を継続出来るのは一人一人の力だと思えます。微力ながら毎年続け様と思っております。

高校21回卒 栗原きみよ

大変遅くなり申し訳ありません。いつもお世話様です。毎回楽しく拝読致しております。

高校27回卒 茂島洋敏

毎回楽しみに拝見致しております。

高27歳島寛子へもお送り頂いておりますが、洋敏へ一部お送り頂ければ結構です。宜しくお願い致します。

高校22回卒 竜美代子  
いつもお世話様でございます。

私事ですが、名前の訂正をお願い致します。竜 美和子ではなく、竜美代子です。

高校12回卒 井上功夫  
平成17年1月17日伝習館の後輩が修学旅行で上京し東京同窓会の江崎会長が、後輩に対して自分の人生経験の基調講演があるので、高12回

生の学年幹事の岸川さんと私が品川プリンスホテルに生徒の激励と基調講演を聞きに出席しましたが、生徒達には大へん為になる生きた人生経験を拝聴し、良い修学旅行ではなかったかと思いました。

#### 高校16回卒 坂口道子

会報ありがとうございます。

2005年 第5号「ふるさと瓦版」楽しく拝読いたしました。次回もぜひこの企画をお願いします。

#### 高校22回卒 田島栄子

いつもお世話様です。

三浦雄一郎さんの講演会とても良かったです。地道な努力とチャレンジ精神には頭が下がります。

#### 高校2回卒 田中茂

高校2回卒です。会員ではありませんが同期の連中が頑張っている様なのでカンパします。(福岡市 在住)

#### 高校21回卒 白谷政則

17年度賛助金、お送りします。

今年も楽しい紙面 期待します。

#### 高校27回卒 高橋圭介

遅くなりましたが賛助金を入金します。

そのうち そのうちと思いつつ手にした会報を見れば、すでに5号。さすがに申訳ないことと思つていきます。

総会にはほとんど出席していませんが、この会報は続けて頂きたくお願いいたします。

#### 高女44回卒 宝珠山福代

平成16・17年度分とさせて頂きま

#### 高校6回卒 中村充

賛助金の納付を今日まで待って頂きました。去る3月8日の高六卒の三稜会出席で2年越しの希望が達成

し、余剰金が出来ましたので納めさせて頂きました。おそくなつて申訳ありません。

#### 高校20回卒 近藤敬介

伝習館と新柳川市の発展を祈ります。

#### 高校2回卒 廣松敏克

東京同窓会会報第5号をお送りいただき有難うございます。三浦雄一郎氏の特別講演をはじめ、すべて楽しくなつかしく、興味深く読ませていただきました。

江崎会長はじめ、関係者の皆様、同窓会発展のため、大変むづかしいことですが、ご努力されていることに敬意を表します。益々のご発展をご祈念いたします。

#### 高校3回卒 北原瑞夫

東京同窓会会報、毎号楽しく読んでいます。山田銀一郎さんの「野球部頭末記」は忘れていた柳川弁を沢山思い出させて頂き、面白くコロンゴ回りたいくらい大笑いしました。又

酒井清行さんの「伝習館水泳部の最も輝いた日」の記事は改めて感動を覚えました。遅くなりましたが賛助金送ります。

住所変更しました。

旧住所・川崎市南平台19-1-305  
中学54回卒 山田道保

毎号懐かしく読ませていただいています。

高校7回卒 田中健次  
会報第5号で紹介の大相撲琴奨菊の活躍を毎日応援しています。(5月場所)

#### 中学50回卒 廣松親弘

会報5号、たのしく拝読させて頂きました。

会長、世話人の皆様方へは、ご苦

労に感謝致します。同窓会の益々の発展を祈ります。

#### 中学54回卒 武藤吉郎

伝習館東京同窓会々報の発行に対し敬意を表します。

ささやかで誠に恐縮であります。賛助金をご笑納下さい。(柳川市大和町)

高女42回卒 遠藤美代子  
何かとお世話さまでございます。遅くなりました。よろしくお願ひ申し上げます。

高校1回卒 津村きよみ  
だんだん年を取りますと送金致しますのも負担になりましたので今回で終わりに致します。

なを 会報の御送付はご遠慮致します。

#### 高校3回卒 田中穂積

会報発行ご苦勞様です。毎回楽しみにしています。

#### 高校3回卒 村井タカ子

お世話様です。おそくなつてすみませんでした。次回会報を楽しみにしております。

#### 高校3回卒 松竹紀子

お世話になっていきます。大変遅くなりましたが会費お送り致します。

#### 高校4回卒 倉本博子

多忙にかまけて遅、遅くなり申し訳ございません。会報の編集ご苦勞のことと存じますがいつも楽しみに拝読しております。

#### 高校7回卒 宮地厚生

久しく伝習館を訪れていません。今の学校の記事(運動会の様子、インターハイで活躍した経緯など)があると心が和みます。

#### 高校8回卒 坂口加津代

いつもお世話様でございます。

#### 高校13回卒 古賀誠三

同窓会々報、毎回楽しく読ませてもらっています。賛助金払い込み遅れました2口送ります。

#### 高校22回卒 田島栄子

いつもお世話様です。お役に立てれば幸いです。

#### 高校17回卒 下吹越智佳子

修学旅行の研修等、後輩や私達卒業生の為にお骨折り下さりありがとうございます。お世話を受けるばかりで申し訳ありません。

#### 中学53回卒 古賀和典

些少ながら何かの足しになればと送らせて頂きます。

#### 高女40回卒 安東真砂子

会報御送付ありがとうございます。楽しみに読ませて頂いております。

#### 高女46回卒 古賀弘子

大世帯の同窓会の運営、大変でございますね。協賛金の送金、遅くなり申し訳ございませんでした。

#### 高校2回卒 辻三二

既にお納めしているかと思ひます。二重払いの場合には、どうぞ奇附金として御笑納願います。

#### 高校4回卒 緒方常子

遅れてすみません。気持ちには有るのですが、手元を離れますとすぐ忘れてしまいます。これも年齢でしょうか。

#### 高校5回卒 鈴木妙子

いつも会報ありがとうございます。

#### 高校6回卒 井上弘子

いろいろお世話になります。なかなか身体が思うようにならず、お手伝いも出来ませんが、今後ともよろしく御願ひいたします。

#### 高校13回卒 進藤達実

いつも読んでいます。小生も「航空安全情報誌」を作っています。苦勞が分かります。

#### 高校18回卒 川口苦笑

昨年、10月に「御花」で会された同窓会に出席してとても楽しい時間をすごさせていただきました。

#### 高校23回卒 竹内幸代

会報ふるさとのことは等なつかしく読ませていただきました。いつもありがとうございます。

#### 中学47回卒 永江啓二郎

昨年来、脳梗塞をわずらい忘れっぽくなりました。送ったかどうかわずれました。悪しからず。

#### 中学51回卒 今村忠志

会報有難うございました。会の発展を祈ります。

#### 高校4回卒 池上正則

小額ですけど協賛金として送らせていただきます。(柳川市 元助役)

#### 高校4回卒 加賀田昇

同窓会運営お世話さまです。5口 5,000円を送金します。

#### 高校9回卒 北原久也

いつも楽しく読んでいます。

#### 高校18回卒 福山博彰

いつも楽しく会報を拝見させて頂いています。

#### 高校23回卒 下田真知子

編集に大変お骨折りのことと思ひます。投稿文にやや長すぎる(詳しくすぎる)のがあるのが気になります。

#### 高校23回卒 下田真知子

会報誌楽しみにしております。

#### 高校23回卒 平田真理夫

遅くなりました。よろしくお願ひします。

高校26回卒 平林尚子

会報ありがとうございます。毎号楽しく拝見しております。今後共よろしく願います。

高校2回卒 松平隆子

平成17年度分です(1口分)お世話様です。よろしく願います。

高校7回卒 大藪成人

平成17年度協賛金納入致します。

高校7回卒 具島和子

お世話までございます。宛名が貝島(かいじま)となっておりますが貝島(ぐしま)と申しますので。

高校7回卒 野林修

伝習館同窓会報楽しみにしております。益々のご発展をお祈りします。

高校14回卒 松尾チエ子

お世話様です。すっかり忘れてしまつて遅くなり申し訳ありません。宜敷く願います。

中学55回卒 小泉祐一郎

いつもお世話になるばかりで申し訳ございません。会報第5号を頂いたとき、払込票は同封されていましてした。他にも同様な方が結構居られるのではないのでしょうか。

中学55回卒 高巢和夫

いつもお世話様です。遅くなりましたが会費送ります。

高校5回卒 今村直

平成17年度協賛金2,000円、送金します。貧者の一灯です。

高校9回卒 石瀬簪子

いつもお世話様でございます。小額でございますが送金させていただきます。

高校9回卒 山下恒吉

17.3.31 2度めの定年を迎え、趣味のゴルフを楽しんでいます。

高校15回卒 執行紹代

大変遅くなり申し訳ございません。会報楽しく拝読させて頂いてます。

高校16回卒 田中文夫

お世話までです。日頃のご協力出来なくて申し訳ありません。

高校18回卒 吉田シヅカ

遅くなり大変申し訳ありません。私、只今「青春?」やっております。

高校11回卒 合田道子

大変遅くなり申し訳ございませんでした。会報毎回楽しみに拝見させて頂いておられます。

高校13回卒 吉川利行

来年の東京総会には大阪より、13回生に声をかけ、何名か参加したいと思ひます。

高校15回卒 一木克子

いつもお世話になります。よろしく願います。

中学48回卒 宮本弘道

17年度協賛金として身体はますます健康にしています。

人間生きることの意味をかみしめて、書き込みのきく余白を大事にしたい昨今です。同窓会の発展を祈念します。

中学56回卒 菊次愛作

協賛金長く失念し申し訳ありません。とりあえず3口納めます。各位のご健闘を祈ります。

高校6回卒 菊次伸子

遅くなりました。協賛金をお納めします。

高校9回卒 福山幹子

会報は興味ぶかく読んでおります。出来るだけ永く継続される事を喜んで、に協賛金をお送り申し上げます。

高校19回卒 森田達雄

五月の関西同窓会には、江崎直会長にご臨席承り大変嬉しく存じました。

高校13回卒 山田孝輝

お世話をして戴いている方々のご苦勞に感謝致します。

高女33回卒 木下チヲ

振り込み先が分からず、おそくなり申しわけありませんでした。

女併1回卒 川上寿美子

いつも気になりながら大変遅くなり申し訳ございません。

高校11回卒 田島龍子

いつも大変御世話になっております。遅くなって申し訳ありません。

高校6回卒 臼杵律子

おなつかしい皆様にお逢いしたいと思ひます。福祉関係の難事に追われなかなか思うようにはいかず残念です。

同窓会の増々の御発展を祈り上げます。

高校12回卒 石井芳文

闘病中につき失礼致しております。た。

役員の皆様お世話様

寸志の一口ですみません。

高校31回卒 田中晃二

お世話様です。協賛金の払込が遅れ申し訳ありません。いろいろありますが、高2の先輩たちの「昭和ひとがとうございます。会報の発行に費用がかかるようですので、次号からの発送は結構です。地元で両親、兄弟がおりますのでそちらから情報も入ります。貴同窓会様のますますのご発展をお祈りしております。

高校19回卒 志牟田悟

会報のお世話をして頂いている皆様には、感謝感謝であります。04年は、作曲家 古賀政男生誕100年でありました。これらのTV番組のたびに我が母校「田口小学校」が放映され、涙して感動いたしました。(6年生の時は道徳教育の指定校でした)4年前に亡くなった志牟田校長が古賀政男さんと田口小のクラスメイトであったこともあり、いろいろと想い浮かべ、ことのほか懐かしく感じました。合掌

高女26回卒 大城俊

両親が長い事お世話になりありがとうございます。父、大城 二

男 第26回伝習館、85歳と4か月永眠)母は(高女026、850003870。大城 俊 95歳と4か月で永眠)今年の7月24日で3回忌を迎えます。私は、娘で会報を楽しく読んでます。

高校2回卒 松尾哲夫

お世話様です。どうぞよろしく願ひ申し上げます。

高校3回卒 白井朗

遅ればせながら賛助金一口振込みます。同窓会報・創刊号4号まで毎号充実した内容・小野善陸先輩の編集のご尽力に感心してました。

高女40回卒 山田チテ

遅れて申訳ございません。会報5号をみておりませんので払込遅くなりました。このお知らせも状況した後、佐渡の方へ送っていたら有り難いです。

(佐渡市 新穂北方4001)

高女1回卒 横山三三男

すったくもん、こんじよもん、すこたえもん、で、じゅうげもんの

私ですが、まなざしの奥には……

高校7回卒 下田敏子

東京同窓会の会報をいつもお送りいただいております。会報を作ってくださいっている皆様の

ご苦労に感謝して懐かしく読ませて  
いただいております。大変おそくな  
りまして申訳ございません。

高校6回卒 島添静思

些少でご期待に添えませんが5口  
ご送金致します。

高校8回卒 島巢厚子

昨年暮 四十数年住み慣れた東京  
よりフルサト福岡へ引き揚げまし  
た。息子のお墓が近くなり安らいで  
居ります。

長い間お世話になりました。皆様  
と会の発展を祈りつつ、気持ちばか  
り送らせて頂きました。

高校12回卒 古賀アヤ子

先日 学年幹事の方と、東京メト  
ロウオークに参加し、東京同窓会の  
こといろいろかがいしました。どう  
ぞ今後ともよろしく御指導の程お願  
い致します。

高女46回卒 佐伯淑子

お世話様で御座居ます。大変おそ  
くなりましてすみません。よろしく  
お願い致します。

高校6回卒 森清旨

ご無沙汰致しまして申し訳ありま  
せん。

幹事の皆様には、公私にご多忙の  
中を同窓会運営にご尽力いただきま  
して深く感謝致します。

何卒今後共宜しくお願い申し上げ  
ます。

高校7回卒 浜野弘子

同窓会報なつかしく拝読いたして  
おります。編集の方々担当の方々い  
つも御苦労様です。

中学53回卒 木下憲男

16年度を送金していませんと思いま  
すので16年度と17年度を二口づつ  
二口をご送金致します。

高校10回卒 相浦英子

柳川近郷在住の10回卒生有志で  
す。学年幹事を通して会費が届けら  
れました。1口8名分気持ちをお届  
けします。預り永倉(跡部)

岩井(奥井)美江子

篠原(迎)弘子

内野(荻島)恵美子

水田(田中)ツイ子

古賀(古賀)マツエ

森田(森田)節子

古賀(山田)ミユキ

相浦(相浦)英子

高校13回卒 龍秀毅

同窓会の運営、ご苦労様です。

高校7回卒 古賀日出夫

会報をいつもお届けいただき有難  
うございます。ボランティア活動の  
謝礼を貯めたお金です。少額ですが  
賛助金に送付します。

高女35回卒 原ヒサ子

今年87才になります。この年にな  
つて、ますますふる里をいとおしく  
思います。

今は娘と2人で、とびきりの九州  
弁で、泣き笑いをしています。ふる  
里さん、有難う。

高女47回卒 鈴木美枝

御世話様でございます。

高校8回卒 入部一郎

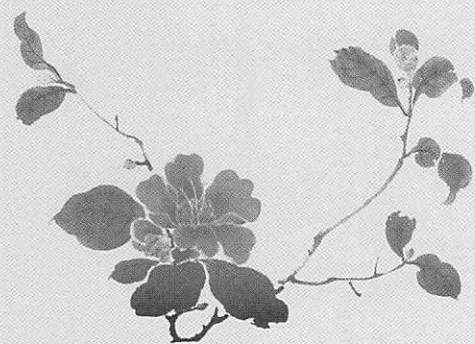
高校8回卒の入部です。世界遺産  
に登録された知床の玄関口に住みす  
でに40数年になります。ぜひ一度御  
来道下さい。コースの選定のアドバ  
イスいたします。尚東京同窓会の  
方々御苦労様です。僅少ですが会費  
をお送り致します。立花様は小生の  
妹と同期だったのでは？(故恒子で  
す)

高校29回卒 西川正子

お世話さまです。諸々の忙しさの  
ため振込み気づくのが遅れましてす  
みませんでした。

高校13回卒 中島弘子

いつもお世話をかけております。  
遅くなりました。



## お願い

皆様宛に会報や総会案内等をお送りします  
と、転居先不明等の理由にて返却されて来る  
ケースが、度ごとに増えております。

事務局では名簿整備の担当の方々が、都度  
再調査に努めておりますが、なかなか思うよ  
うにいきません。事務局の方から同期の方の  
転居先など問い合わせるやも知れませんが  
その節は、宜しくご協力賜りますようお願い  
します。

又、次のような際には、是非ご一報賜りま  
すようお願いいたします。

- 転居された場合。
- 新たに東京同窓会地域内(概ね静岡県  
以北)へ転入された方をご存知の場合。
- 同期会などの折に新たに名簿を整備さ  
れた場合。
- 同期の方に会報や案内が着いてないこ  
とをお知りになった場合。

以上

# 東京に輝ける三稜の星たち

「東京同窓会」の歩み―その6

副会長 松永 肅

私が東京同窓会のお手伝いをはじめから、古賀繁一氏が会長に就任されるまで、約10年が過ぎた事になります。この間、東京同窓会は、まがりなりにも何んとか継続されてきたように思われます。

昭和56年6月28日にご就任後初めての東京同窓会が九段下のホテルグランドパレスで開催されました。来賓には、山崎平八郎代議士、乗富光義柳川市長、大坪永三伝習館校長、古賀和男伝習館同窓会副会長などが出席され、田中禮二氏（高5）の司会のもと盛大に開催されました。出席者数は前回と殆んど変わらず112名でありましたが、寸暇を割いて出席された元イギリス大使の森春樹氏や柳川高女の同窓生が多数参加され、和やかなひとときを過ごすことができました。

同年、9月の「みろく会」の例会当日、古賀会長から「同窓会のこと君に聞きたいことがあるので、都合の良いときに僕の会社まで来てほしい。」と要請がありました。そこで、数日後、丸の内三菱重工業本社の古賀会長の執務室にお伺いいたしました。

ご質問は、東京同窓会の実態についてでありました。これについては、同窓会事務局のお手伝いとして携わってきた過去約10年間の実態と経緯をつぶさに説明させていただきましたところ、一応ご理

解いただきましたが、今後の同窓会の在り方については、改善するの必要を感じられた様子でありました。

同年6月に開催された東京同窓会は、先の5期会から提供をうけた約350名の名簿を加えた、総数852名に案内状を発送し、112名の出席がありました。私が「和やかな雰囲気で開催出来ました」と申し上げたところ、会長は、「5期会の存在は伝習館同窓会にたいして反旗を翻したものである。一番脂がのつた社会人として良識をもち活動しなければなら



宮崎あさ副会長（高女12回卒）と柳川高女の校歌を熱唱される高女45回卒の皆さん

ない壮年達が、何を血迷って同窓会を分断する行動をとったのか僕には理解出来ない。ましてや、当時の文部省のエリート官僚の同窓生がリーダー的役割のもとで結成されたことは不愉快だ。本来なら、5期会を発足させた動機はともあれ、伝習館の東京同窓会の中心的役割を果たすべき仲間が、間違った方向に歩きはじめたのは残念だ。トップに立てるエリート官僚であるならば、こんな小さなリーダーではなく、視野を広くもって欲しい。彼には東京同窓会の会長ではなく、母校伝習館の同窓会長としてリーダーシップを発揮してほしいと思っていたが、これでは将来が思いやられる。残念だ。」と鋭い目つきで前方を見据えてひと言ひと言を噛みしめながら発せられたお言葉が深く印象に残っております。

翌年、即ち昭和57年7月の「みろく会」の例会に母校伝習館同窓会長の江上辰之助、伝習館高校校長前原二郎一、伝習館父母教師会会長古賀和男、伝習館事務長近藤央、河野秀行、高田秀郎の各氏が突如来訪されました。用件は、今度、伝習館は59年2月に県立移管90周年を迎えるにあたり、記念事業として同窓会が「三稜記念館」を企画し既に福岡県立伝習館高等学校90周年記念事業実行委員会を発足させ活動をはじめているので、東京同窓会にも応分の協力をお願いのため伺った。内容は、同窓会館と、セミナー・ハウス（宿泊研修所）を併せて建設するもので、後者については昭和58年度から文部省で設置してくれる途が開け、当局のご高配により、伝習館がその選に入り、

国と県の予算で建設されることとなったとの事でありました。総工費は、2億1千8百万円で、うち約半分を同窓会が、残り半分を国と県が負担して、昭和59年夏までの完成を目標に努力しているとのことでありました。この「三稜記念館」を同窓会が負担する建設費は、寄附金を募ることとし、募金は2種類に分かれており、1つは、中学校、女学校、高等学校の各年次毎に割り振りされた目標金額を年次毎の幹事が世話を集めるものであり、これは既に早くから同窓会本部の記念事業実行委員会が鋭意推進しているとのことでありました。もう1つは、特別寄付となっておりませんが、1種類目の卒業年次毎の一般寄付の1億2千8百8拾万円に対し特別寄付は7千2百万円（一般寄付の56%）であり、その支部別募金目標は、東京3千万円、地元2千万円、福岡1千万円、九州3百万円、熊本百万円、その他8百万円で合計7千2百万円との事でありました。

この事は江上同窓会長から「みろく会」の席上で趣旨説明と、協力の依頼がありました。古賀会長は記念館の建設の趣旨は理解されましたが、東京同窓会に対する特別寄付の算出根拠について質されたもの、江上同窓会長から納得出来る説明はありませんでした。

即ち、東京同窓会に対する特別寄付の割当て額が異常に高額であったからではないかと思われました。古賀会長は、この割当額には納得がいかなかった様子で、懇親会が終了後、すぐ会長に呼ばれ、会長から「3千万円の特別寄付は、君、

引き受けられるか？」とのご質問でありました。私もこの金額には困惑しておりましたので、「現状では不可能です。」とハッキリお答えしました。理由を会長に無責任なお答えは出来ませんので、暫く考えてから、ご承知と思えますが東京同窓会の在籍者数は1千名足らずです。実数は少なくとも関東地区に3千名は在籍しているものと推測いたします。根拠は、伝習館全体の卒業生数は（勿論柳川高女を含む）3万人は下らない筈ですから、その10パーセントの約3千名が関東地区の在籍者と考えられますが、実数は約1千名で、平均3万円の拠出となります。加えて各人の年次別の拠出がありますので、特別寄付の要請額の10パーセントの3百万円から5百万円の拠出が精一杯と思いますとお答えいたしました。

会長も暫く熟慮されておられました。が、「僕も少し検討してみるよ。」と仰って、お戻りになりました。当日みろく会にご出席で伝習館を卒業された方々は桜庭久吉、吉開不二夫、小柳潔、緒方那次、戸嶋謙也、安東守敬、本吉信雄、草刈栄一、古賀繁一、安藤祥介、田中禮二、江口三千雄、増尾義勝、坪内肇、高柳正雄、古賀義利、松田含、福山修、山本凡、綿貫友輔、宮崎あさ、立花盛枝の皆さんと私でありました。

数日して、古賀会長から呼び出しがあり、三菱重工の会長の執務室で「特別寄付のことは、君の説は正しいようだね、しかし要請には応える必要があるの、急いで同窓会の臨時総会を開く準備をして欲しい。僕から「三稜記念館」の建設

趣旨説明をし、会員の了承を得たあと、東京同窓会員の全員に募金の依頼状を送り、協力をお願いしたい。」とのご指示をうけました。

東京同窓会臨時総会は、同年9月23日に九段下のホテル グランドパレスのダイヤモンドルームで開催され、130名の出席がありました。古賀会長から「三稜記念館」の建設の趣旨説明があり、この「特別寄付」について会場に語り、ご出席の皆さんの賛同を得、実行委員会を設けて推進することになりました。早速、古賀義利氏を中心に、実行委員会を組織し、母校同窓会本部と連携を取りながら、東京同窓会の会員名簿の整理をおこない、経費の節減などを勘案して、東京同窓会の「特別寄付」の依頼状は、「各卒業生年次毎の募金」の依頼状と一緒に同封してお願ひすることになり、「特別寄付」の依頼は古賀会長名で、11月に郵送させていただきます。

実行委員会では、「特別寄付」の入金状況を本部の事務局から報告を受けておりましたが、昭和58年3月の年度末の時点での募金額はあまり芳しくなく、目標金額の6分の1の5百万円にも満たない状態でありました。会長も大変気になりました。4月に別件で会長にお目にかかった折りに、会長から、九州に出かける用事があるので、ついでに伝習館に立ち寄って来たいと思う。「三稜記念館」の建設費、寄附金の算出根拠などについて、少し確認してきたい。」とのことでありました。日時は、失念いたしました。

確か5月のゴールデンウィーク明けころであったと思います。単身で伝習館に赴かれ、本部同窓会と学校側の関係者から詳しい説明を受けられ、その時多少の算出ミスがあり、これを修正し、むしろ「同窓会館」が負担する維持費等を予算額に加え若干増額したとのことでありました。

東京同窓会の実行委員会では「特別寄付」の拠出金の集まりが芳しくなく再度募金の依頼を行うことになり、古賀会長のご指示のもと同年8月に同窓生あてお願い書を郵送させていただきました。その時点での東京同窓会の「特別寄付」の募金額は、目標額3千万円に対して、拠出額は2百8拾2万円、差引2千6百拾8万円という募金不足の現状でありました。しかしながら、この2月に、東京同窓会の事務局の私の手元に県立移管90周年を記念して発行された同窓会名簿が届けられました。装丁はB5版で厚さが4センチ・758ページにおよぶ立派な名簿でありました。この名簿のお陰で、東京同窓会会員の在籍者が全て確認出来ることになり早速、名簿の分析に取りかかりました。その結果、伝習館の全体の同窓生の人数は26,535名におよび、内訳は中学伝習館は明治23年の第1回卒業から昭和24年の第57回卒業生までで4,162名、昭和23年・24年の併置中学校の卒業生が224名、昭和24年の高等学校伝習館の卒業生が114名であり、柳川高等女学校は明治34年の第1回の卒業から昭和23年3月の第48回の卒業まで5,601名、昭和19・20・21年の

教員養成科の卒業生が165名で昭和24年の柳川女子高等学校の卒業生が18名、昭和23・24年の併置中学校の卒業生が270名であり、加えて昭和25年の伝習館高等学校第1回の卒業から昭和56年の第32回卒業まで15,981名でありました。東京同窓会の在籍者数もこの名簿のお陰で、東京同窓会のエリアを静岡県から北海道までを含めて2,416名の同窓生を抽出する事が出来ました。「特別寄付」の第2回目の依頼状は、この2,416名の同窓生に対して発送された結果、拠出金も大幅に増加いたしました。しかしながら、募金の目標額が高額であり、3千万円には到底およびませんでした。その後、本部の「三稜記念館」建設実行委員会では、「特別寄付」の取扱について協議され、最終的には各卒業生年次毎の募金額に組み入れることになり、募金の総額は本部の同窓会から知らされませんでしたので判明しておりませんが、昭和59年7月27日に「三稜記念館」が落成し盛大に披露されました。

昭和59年2月25日には、創立160周年、県立移管90周年記念式典が母校の体育館で盛大に挙行されました。これには古賀会長は海外出張のためご出席が叶わず代わりに立花副会長がご出席になり、私も子供を命じられ参列させていただきました。

この「三稜記念館」建設事業は、古賀会長が東京同窓会の会長に就任後初めての大事な仕事で、大変なご尽力をいただきましたので、ここに紙面を割いてご披露させていただきます。

# 先輩・後輩より

## 知らなかった 大先輩

中学 56回 松本一郎

戦艦大和が沈没して満60年になりま  
す。「宇宙戦艦ヤマト」は知っていても、  
戦艦大和は知らない人たちのために、ま  
ず大和について簡単に説明致します。

「大和」は、旧日本海軍が誇った排水  
量六万九千トン、長さ二六三メートルの  
世界最大の戦艦でした。昭和一六年一二  
月に竣工したこの軍艦は、僚艦「武蔵」  
と共に大艦巨砲主義の申し子のような存  
在でしたが、航空決戦時代ともいうべき  
太平洋戦争ではこれといった活躍もせ  
ず、昭和一九年末からは呉軍港に繋留さ  
れたままでした。

昭和二〇年四月一日アメリカ軍が沖縄  
本島への上陸を開始すると、大和を旗艦  
とする第二艦隊に対して、空からの特攻  
攻撃の効果を上げるため、敵の迎撃機群  
を吸収する囮として沖縄海域に突入せよ  
という命令が下りました。当時、鹿屋や  
知覧などの航空基地から毎日のように特  
攻機が出撃していましたが、その大半は  
標的の艦船に到達する前に撃墜されてい  
たのです。ちなみに、沖縄戦に投入され

た特攻機の総数は、二、三九三機に上っ  
ています。

この海上特攻作戦に参加するのは戦艦  
大和のほか巡洋艦一隻と駆逐艦八隻だけ  
で、飛行機はゼロです。第二艦隊司令長  
官伊藤整一海軍中将は、この命令に強硬  
に反対しました。大和の

出撃を探知したアメリカ  
空軍が、沖縄海域に到着  
する前に強襲してくるこ  
とは必至ですから、味方  
の掩護機が一機もないと  
なれば、艦隊の運命は決  
まったも同然です。部下  
七千名を犬死させたくな  
い伊藤長官は、執拗な抗  
議を続けました。作戦実  
施部隊が命令を拒否した  
ことは、おそらく日本海  
軍史上その例を見ないの  
ではないかと思えます。

苦慮した連合艦隊司令  
部は、四月六日急遽草鹿  
参謀長を大和に派遣して  
伊藤長官の説得に当たら  
せました。伊藤長官は、  
最終的には死に場所を与  
えられたことを納得して  
出撃を了承するのですが、  
駆逐艦の若手艦長の中  
にはなお釈然としない人も  
いたようです。

危惧されていたとおり、  
アメリカ軍は大和の行動  
を逐一把握していました。

四月七日午後〇時二二分、艦載機二五〇  
機による第一波の攻撃が始まります。凄  
絶な戦闘の様子は、奇跡的に一命をとり  
とめた大和の乗組員吉田満氏の名著『戦  
艦大和ノ最期』（講談社文芸文庫）に詳  
述されています。

### 「語り継ぐことが主題」

### 「男たちの大和/YAMATO」クランクアップ

戦艦大和の最後を描く「男たちの  
大和/YAMATO」がクランクア  
ップし、佐藤純弥監督や主演の反町  
隆史、中村獅童らが都内のホテルで  
記者会見した。12月から全国公開さ  
れる。

「男たちの大和」は、太平洋戦争  
末期の45年4月、沖縄水上特攻作戦  
に向かう途中の東シナ海で撃沈され  
た大和の乗組員の生死を追ったもの  
で、本物の戦艦大和と同じ大きさの  
セットを約6億円かけて作って撮影  
された。

会見で、佐藤監督は「この作品は  
鎮魂や語りの継ぐことがテーマ。最初  
は映画でそんなことが本当にできる  
かと思ったが、撮影を終えて自信が  
得られた」と振り返った。

続いて反町、中村が、大和の生存  
者で漁師役の仲代達矢、大和を指揮  
した伊藤整一司令長官役の渡哲也ら  
とともに登壇。反町は「10代、20代  
の人たちに見てもらって、日本には  
こういう事実があり、大勢の人たち  
がじくなったということを知ってほ  
りたい」。渡は「戦後60年の節目  
の年にこの作品に出演できたことを  
重く感じる」と語った。



記者会見に臨んだ「男たちの大和/YAMATO」の出演者たち  
ち東京・日比谷のホテルで

午後二時二三分、延べ一千機の攻撃を受けた大和は大爆発を起こし、鹿児島県坊ノ岬沖一七〇キロメートルの東シナ海に沈没しました。その直前、伊藤長官は作戦の中止と生存者の救助を命じ、部下に別れを告げて一人自室に戻り、大和と運命を共にしました。この無謀な作戦によって、大和のほかに巡洋艦一隻、駆逐艦四隻が沈み、三七〇〇名の生命が喪われています。



大和沈没六〇周年を機に、呉市海事歴史科学館に実物一〇分の一の精巧な模型が登場したことが報ぜられました。これに刺激されて『戦艦大和ノ最期』を再読し、改めて伊藤長官の人物像に興味を持ち、海軍将官の名鑑を調べました。すると驚いたことに、中学伝習館卒業とあるではありませんか。慌てて卒業者名簿を繰ってみると、「第一六回生、明治四二年三月卒業」と分かりました。その後吉田満『提督伊藤整一の生涯』（昭和五二年刊）を入手して、伊藤提督が三池郡黒崎開村（現高田町）の出身であること、昭和三三年四月大牟田市岬に顕彰碑と墓が建てられ、四月七日の命日には墓前祭が催されていることを知ったのです。

従容として死に就いた伊藤提督が思いもかけずわれらの大先輩であることを知って、強い感動を覚えました。ところで皆さん方は、このことをご存知だったでしょうか。

戦後生まれの方々は、伊藤先輩は職を

賭しても最後まで無謀な命令に反対すべきではなかったかと思われるかも知れません。しかし、それは戦前の軍人にはおよそ考えられないことでした。負け戦で死ぬことが分かっているながら湊川に出陣した楠木正成と同様に、軍人は命ぜられるままに死地に赴かねばならぬという義務感とプライドを有していたからです。



## この一撃で歴史が動く、喝だ!

よかやっかんも (第3弾)

高1回 横山二三男

大上段ふりかぶって

えいっ!

相手は唸るような必殺の剣で斬り込んできた。気迫に負けてはおれない。

おうっ!

こちらは間一髪のところまで体をくねらせ剣先を避ける。ひと呼吸、間をとって、

来い!

逆に氣勢をみなぎらせて相手に挑む。自然に下段の構えをとる。緊迫した果し合いだ。

神気さえたゞよう修羅場である。

相手の動きに合わせてズズブツと歩幅を進める。両者の眼光に裂帛の気合いが走る。

剣がキラッと光る。

その一瞬だ。

やあっ!

長身の大石進は千葉周作の眼前で一刀のもとに打ちのめされ膝を打って体ごとその場にぐずれ落ちて息が切れる。

天保のころ（一八二九—四一）、筑後

柳河藩にも大石と名乗る新陰流の剣聖が

いたと聞く。筑後一円はおろか九州全域に彼を越す腕の立つ剣豪はいなかったそう

うだ。腕を競える相手を求めて大江戸へと旅立つのである。昔流に云えば道場破り、オレ流にゆけばトライアル。

出たのには出たものの所詮は大海を知らない田舎っぺ。幕府直属の剣の指南、千葉周作や桃井春蔵らに子供扱いにされる。

直心影流の達人たちに歯が立たなかった。

勝負の世界はきびしい。上には上がある。奥が深いし、油断できない。ナメたらあかん。

それから百年以上もあとの話だ。

柳川のはずれ、いや、久住を源流とする筑後川の先端が有明海に注ぐ沖端という小漁村に降って湧いたように突然ビツグニュースが飛び込んできた。

往き交う村人たちが顔を合わせて語り合う言葉が一樣に

「二三男が出るげなバイ」

つまり、この私が、三柱神社（藩主を祭る）の秋の奉納試合に矢留小学校代表として出場するという噂だ。

この報にまず驚いたのが母。

「このヒケシカ（弱々しいという方言）末っ子にそんな大それたことができまスカいな? こらヤオいかんごつなつたネ（大変なことになってしまったわいという意味）」

と首をかしげる。

「村の誇りたい」

村人たちが異常な舞い上がりを見せる



のには閉口した。よく考えて見よう。こんな貧弱な体型でしかも円脊えんはい。小学へ入るまでに近所の鼻タレ小僧たちにケンカも売れなかった臆病者が学校代表に選ばれるわけがあるまいというのが大方の予想だった。

選びぬかれた以上はなにかやらんといかん。気丈な母は小さな私の手を引いてカナキンへ駆け込んだ。村一番で唯一の洋品店へ行こうというのだ。

こりやどうだ？ 着てみんか？

私より母の方が購買意欲をあおる。水天宮前の洋品店内のガラスの陳列台のなかは各種の剣道着が揃えてあった。ノリの効いたピッカピカの道着を一式買ってくれた。

大変なノリである。

白地に黒の基盤縞の上衣。

白い波形入りの紺袴、出て立ちがまったく新撰組隊長の近藤勇そっくりじゃありませんか。小さな胸の鼓動が止まらなかつたのを憶えている。

頭の上に豊んで寝なさいよ。

母は寝る前に布団の側にそつと折って重ねて置いてくれた。

私は興奮してなかなか寝つけない。

本人がよそよそと落ちつかないのと同様に、近所の奥さんたちも負けずに胸をときめかす。前の晩になると繰出でわが家の竈かまどに集合し、炊き出しに全回転する。重箱かさねのなかに次々と有明海の珍味がきれいに並べられる。食欲をそそる格別の美臭が部屋中にたゞよう。

応援団員への食料である。愛犬のビスまで犬小屋を飛び出し台所でクンクン鼻

を鳴らす。みんな落ち着かない。

木曾平沢製の漆塗りの重箱は幾重にも積み重ねられた。

と、そのころ、吃りのトッチちゃん（利雄の愛称）が息を切らして駆け込んできた。重い木製の裏戸がきしむ。

「オ、オ、オツツァン！ ト、ト、トッペンに陣取りしてきたよ！ ホンに見晴らしの良かトコバイ！」

と、私の父に向つて絶叫していた。

トッチちゃんは試合場となる高畑公園の丘の上が一番の見物席を見つけ抗打ちし、荒縄で囲み大きな花塵はなごころを敷いて来た

と報告する。

準備万端整ったわけで、あとは二三男の出番を待つばかりとなる。

特設の観覧席には地元よこの漁師さんたちも加わり熱気が四方にこだまする。

ライトブルーの淡青な秋空のもとで大会は幕を開けた。私たち小学生グループは川津先生の引率で三キロの道程みちのりを一時間かけてゆっくり現場へ到着した。

紅白の陣幕の内部には近郊の小学校約二十校の代表選手たちが道着をまとつて整列し、出番を待っている。

ジャッジをつとめる地元警察の警官（巡查といつた）もスタンバイしている。

眼光と形相の妻さは職業柄だろう。

静かに出を待つ私とうらはらに大将の石橋五雄君はさかんにウォーミングアップする。

臨↓兵↓闘↓者↓皆

剣洗の掛け声だ。

そして続く

陣↓列↓前↓勝

その昔の兵法者の準備運動を心得ている。そして額に汗をびっしりかいている。出番前の準備に懸命である。

その全精力をつくした掛け声で私は逆に一歩後退する感じだった。周りの異常なまでの熱気にかえてシヨンペンをちびりそうになる。武者ぶるいつてもんかな？

そんな時、何を思つてか川津先生は私に向つて

「又シヤ（あんたはの方言）次峰ぞ。先峰の試合が済んだらすぐ出る番だぞ」

と、告げる。要するに私は二番バッターだぞとオーダーを数えているのだ。私の尻をイヤというほど竹刀でつ、く。

こうなつてくると戦機いよいよ熟すという感じだ。じつと目をつむる。なにかを考えている雰囲気ふんいきに溶け込んでゆくのだ。

だが、待てよ、あれから腹に一物も入れてないではないか？ こりゃいかん。腹が減つては戦いくさが出きんわい。私だけはこの待ち時間の長きに耐えぬけず、昨夜の料理が脳裡をかすめた。あつそうだ！

煮つけ、炊き込み御飯、そぼろ。ちくわにかまぼこ。テンプラにシヨンシヨン（金山寺味噌）。ガネ（わたり蟹）、シヤツパ（しゃこ）……喰くいてえ……

試合そのものより村人たちが丹精こめてこしらえた重箱の中味に心を奪われる。

まったく信じられない心境である。

それにしても私の出番が遅れて、おそくなつているのに嫌気がさして仕方なかつた。

陽は西山に傾こうとしているではないか？

小砂利が敷き詰められた陣幕のなかでやっとお声がかかった。

一歩前へ！

警官は両校を呼び出した。はりのある声で。両校の選手は横一列に向い合い、蹲踞すんくの姿勢をとつて順番を待つ。

丘の上の応援団が一斉に立ち上つたのがぞめた。つゞいて天にもとゞけと一斉にフミオールの連呼だ。

堰を切つた激流のように喚声と怒号があたり一面に渦をまく。

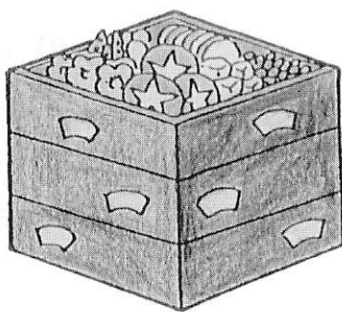
ガンバレー

フミオー、いっほん！ 気合いだあつ！（アニマルじゃないぞオレは。）容赦なく声援がとゞろく。

ヨウウイ！

審判員の腹の底から出るカン高い合図に私は相手と竹刀を合わせて立ち上がった。

気迫みなぎる一瞬だ！  
はじめっ！



戦闘開始のゴングである。

その号令が耳に伝わった瞬間のことだ。

メイン

私の脳天の下真ん中へ相手の強い一撃が振り下ろされたのだ。クラクラとした目まい、目から火が出る脳震盪を起し、私は地面へはつくばってしまった。

イッポーン！

私は竹刀をひと振りもしないまま、相手の皿垣（はらかき）小学校のゴツイ選手に一発をくらってしまった。

史上稀な惨敗。実に無残な負け方をしました。情けなしい。

トッチャんをリーダーとする丘の上のサポーターたちの落胆ぶりは目をおおばかり。

悲惨な結末である。

バカタレが！

お前、なんばしよつとか？

くそつたれが！

想像に絶する罵声がしばらく私の耳元から消えなかった。少しは意識をとり戻したせいかな？

それにしても、あまりにアツ気ない幕切れであった。こんな勝負もあるもんだ。あたりが一気にまっ暗になってしまった。

ストレッチャーで病院に運ばれる私の小さな顔の真上に姉のキツキイ叱り声が爆音のようにひびいた。

バカ二三男が！

何年たってもこの姉のひと声が耳から離れない。

62年ぶりに辻町から国道橋へ抜けるメ



想いのつる三柱神社前に62年ぶりに立つ。

インストリートを一人で歩いてみた。沿道の人たちが勢いっぱいわれら少年剣士たちの門出を祝ってくれた拍手の音が甦ってくるようだった。

カラコンロン下駄の音ひびかせて、出陣したのが昨日のことのように想えて仕方なかった。

私はこの一件以来、竹刀を振っていない。ノーマア剣道に徹してテニスの道へ進んだ。皿垣校は好きになれない。

つゞく。

## 学年幹事より



三稜会 S.30.卒（高6回卒） H17.3.8

昭和30年卒・6回生  
三稜会の報告

高6回 石橋 修

二年に一回のペースで、西暦奇数年の三月に開催しようと決めていた三稜会を、平成17年3月8日、虎ノ門の「霞が関三井クラブ」で開催しました。

卒業して丁度五十年目の節目に当たる記念の同期会でした。

北海道から参加の中村充君と、静岡からかけつけて来てくれた徳永剛一君のご両名が、東京メトロを乗り間違えて遅れて来るハプニングもありましたが、無事に開会の運びとなりました。川口鍵寿郎君の格調高い開会あいさつの後は、それ

それぞれの自己紹介で早くも自慢の喉で歌の披露があったりなど、和気藹々の雰囲気開始しました。

アテネ・オリンピックで日本人ボランテニアとして大活躍した岡田哲也君は、金メダリスト達から書いて貰ったサイン帳や数々の記念グッズを見せてくれました。

アツという間に時間が過ぎ、お開きの後は、例によって東麻布の古賀譲次の店「フロイデ」へ繰り込み、飲み直し、歌い直しの二次会となりました。

今回の出席者は次の二十一名でした。

出席者（敬称略・五十音順）

- 池田勝嗣 石橋 修
- 井手 真 井上弘子
- 梅崎元也 大旗哲也
- 岡田哲也 荻島直記
- 甲木康博 川口鍵寿郎
- 高口隆憲 古賀譲次
- 白谷茂満 田中 稔
- 辻 綾光 戸上軍治
- 徳永剛一 服部尚子
- 松永真侍 井手 由紀子
- 中村 充 (旧姓) 吉開

報告

高10回 永倉素子

立花家伝来「能面、能装束展」が千駄谷の国立能楽堂資料展示室で展示公開されました。（平成17年2月8日～3月24日）

能面は、天神（桃山時代）瘦男（江戸時代初期）他、能装束は、白地祇園守模

柳川藩十一万石

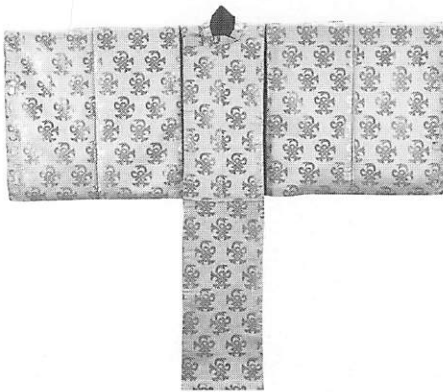
立花家伝来

能面

能装束展

平成17年2月18日（金）  
～3月24日（木） 10時～5時

国立能楽堂資料展示室  
月曜休室、但し3月21日（月）開室、21日（火）休室



立花家は、戦国の勇としてその名を馳せた初代道雪、そして宗茂と、代々武門の名家として知られています。西国無双と評された宗茂は、豊臣秀吉の九州平定に際して豊後大友氏の先陣として活躍した功により、筑後に十三万二千石の知行を得て、その城地を柳川に定めました。しかし、関が原の戦いで西軍に味方したため、柳川を追われますが、その傑出した人格は徳川家からも人望を得て、元和六年（一六二〇）、再び藩主として柳川に入りました。以来四百年、柳川の詩情あふれる美しい風土を鑑賞し、豊かでおどかな文化を育み伝えてきました。このたび、立花家のご好意により、当家に伝来する貴重な能面能装束の優品の数々が、初めて柳川を離れ、国立能楽堂の資料展示室で公開されます。

様袴狩り衣（江戸18世紀～19世紀）（文献が残っていない為、時代の考証は模様、織りかたで推測する「御花」の学芸文化課長植野かおり様談）、紅地石畳唐獅子模様厚板（江戸18世紀）他、数々の貴重な優品が初めて柳川を離れて展示公開されました。

これらの優品の一部は「御花」の御前能（昔、殿様の前で演じた能のこと。）で使用されることがあります。お能は、立花宗茂公が大層好みました。以来

【主な展示品】

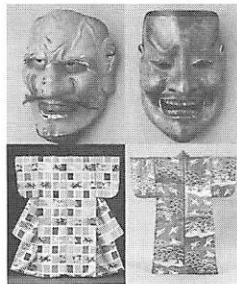
能面  
天神 桃山時代（天下～若狭守）  
瘦男 江戸時代初期  
鼻瘤悪尉 江戸時代前期～中期  
石玉尉 江戸時代初期 他

能装束

白地祇園守模様給袴衣 江戸時代十八世紀～十九世紀  
紫茶段青海波松鷲模様唐織 江戸時代十八世紀～十九世紀  
白絹子地柳燕模様縫箔 江戸時代十七世紀～十八世紀  
○紅地石畳唐獅子模様半袴厚板 江戸時代十八世紀 他

※会期中一部展示替えがあります。

国立能楽堂 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1  
TEL.03-3423-1331 FAX.03-3423-1330



「くっぞこ会」

高12回 井上功夫

皆さんもこの「くっぞこ会」という名前前は懐かしい言葉ではないだろうか。これは、高12回生の関東地区在住の同期会なのです。

その結末は非常に固くその還暦祝が柳川の御花で開催され全国より287名の出席という今まで伝習館卒の還暦祝の中では1番の出席者だと伝え聞いています。柳川の本部の町野会長及幹事の努力で数年前より準備をされ大へんりっぱな祝の会でした。

夜は花火も打ち上げられて還暦祝の文字が空に上がった時は感激したものです。

「お知らせ」

今年の御前能は、

柳川市「御花」に於て、

平成18年6月1日

午後6時からです。

演目は未定。

400年柳川という風土と相まって、おどかな文化として育み伝えられてきました。「御花」の大広間は、畳をはずすと敷舞台になります。

現在、御前能は、初夏の夕暮にくり広げられますが、松涛園の池の水と松の緑をろうそくの炎がつ、みこみ、能と自然が渾然となり幽玄の世界へと誘います。



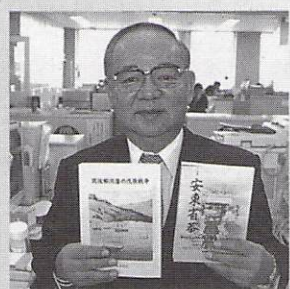
H16.3.31 横浜中華街・四五六菜館にて

今回は70才の御祝をやるとか、健康に留意して出席したいと思っています。  
 柳川での同期会には出席出来にくい人も多かるうという事で関東地区在住の高12回の仲間の会、それが「くっぞこ会」です。この中には第1白秋会（甲木幹事長が主管している登山の会）、第2白秋会（都内のウォーキングの会、私が主管しております）、その他にも夜の飲み会というのがあります。  
 昨年10月31日 横浜中華街の四五六菜館で第24回くっぞこ会を実施したところ40名の参加者でした。  
 2時間は中華料理もよかったが話がないよりものごちそうでした。柳川から町野会長、藤生君も出席し、又、名古屋より木下君も出席、別れがつかく山下公園までゾロゾロ歩き、お茶とおしゃべりをして夕方はまだ話をしたりない仲間は飲みに出かけたようでした。  
 男性は60歳を過ぎ仕事はリタイアし、昔を懐かしむ気持で一杯でした。

# ふるさと瓦版

▼市報「やながわ」2005年2月号より

▼広報「みづま」2005年1月号より



## 元高校教諭の田中さん 「筑後柳河藩の戊辰戦争」を出版

元高校教諭の田中省三さん（上宮永町・61歳・ペンネーム＝鬼童忠恕）が、明治維新期の柳河藩士を描いた「筑後柳河藩の戊辰戦争」を出版しました。曾祖父にあたる田中唯七は柳河藩の下級武士。戊辰戦争で柳河藩

は官軍側につき、唯七も従軍します。本書では唯七をはじめ藩士たちの生きざまが史実をもとに生き生きと紹介されています。

田中さんは、専門は数学ですが歴史が好きで、退職後「小説・安東省菴」を出版し本書は2冊目。次回作「海老名弾正のキリスト教」「明治の元勳 曾我祐準」の2冊も執筆済み。「一市民の立場から、小説風にわかりやすく書きました。たくさんの方に、柳川のよさを知ってもらおう一つの材料となれば」と田中さんは話します。

A5判、192ページ。1200円。市内の書店などで販売しています。詳しくは田中さん（☎74・2385）までどうぞ。

▶左の本が今回出版した本です

## 三猪町の 民話・伝説

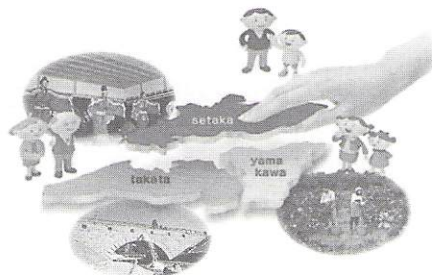
其の十八 「ガマさんとオセさん」

昔、日本で力持ちが仁王さんじゃったげな。隣の中国にヤガマさん言う力持ちがおらしたげな。  
 日本の仁王さんが力比べに舟で行かしたげな。向こうに着いてガマさんの家は尋ねて行かしたげなりや、留守じゃったげなけん、「そんなら又来ます。」ち言うて帰ろうでせらしたげなりや、オセさんが「私が相手しましょう。」ち言い出さしたげな。  
 仁王さんな「女子相手に力比べは出来ん。」ち言うて帰り始めらしたげな。  
 「待て。」ちオセさんが呼ばはってん、聞かん舟は出し始めらしたげん、大きな鎖はオセさんな舟めがけて投げらしたげな。  
 舟は鎖でだんだん岸に引き寄せらるけん、仁王さんなオセさんがこげな力持ちならガマさんなどけん力持ちじゃいわからんち思うて、その鎖はブツち引きひきぎって帰ってこらしたげな。  
 オセさんも日本の仁王さんちどげん力持ちじゃちからたまがらしたげな。  
 それから元気で仕事はすることば「ガマだしよ」とか「オセがじよの」ち言う事になつたげな。

## 瀬高町・山川町・高田町 合併協議会10月1日スタート！

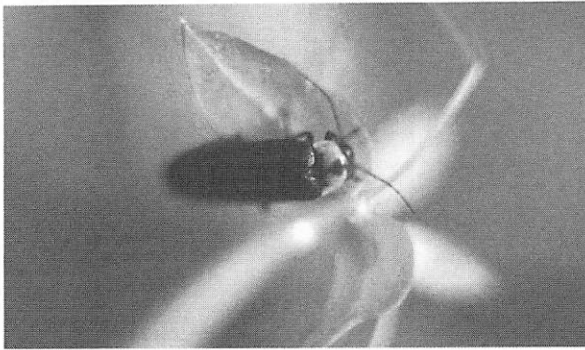
3町合併に対する状況の変化を受けて、瀬高町、山川町、高田町各町議会の議決により平成17年10月1日、瀬高町・山川町・高田町合併協議会が設置されました。事務局は、旧山門三池郡自治会館2階におかれています。

今後の合併協議の内容は、随時「合併協議会だより」や「広報せたか」などを通じて町民のみなさんにお知らせしていきます。



広報「せたか」2005年10月号より

# 文化財めぐり



## 国指定天然記念物 昭和16年3月27日指定 船小屋ゲンジボタル発生地

幕末から明治にかけて開かれた船小屋・長田鉱泉は、戦傷軍人の湯治場となったこともあり全国に知られ、多くの人々がここを訪れるようになりました。特に初夏にはアユなどの郷土料理を味わいながら、新舟小屋のクスノキ林を乱舞するゲンジボタルの姿を楽しんでいたといわれています。その中には明治の文豪・夏目漱石や抒情詩運動家で、かな文字の第一人者・尾上柴舟などもいました。

ゲンジボタルは日本でもっとも大きなホタルで、その育成にはきれいな川の流れと冬を越すための土手が不可欠です。ここは人が生活する地域にしては多くのホタルが生息し、幽玄な景観をかもし出しているということで国の天然記念物となりました。その対象地域は南筑橋から下流に約2.8キロの矢部川沿岸になります。



### 大宇長田

しかし、相次ぐ水害や生活様式の変化による水質の悪化、護岸工事による土手の消滅などが重なりその数を大きく減らし、現在は地域の人々による保護活動が行われています。

中学伝習館第19回明治45年3月卒の大先輩、北原大榮こと鹿次郎の彫刻展が別紙の通り開催されました。

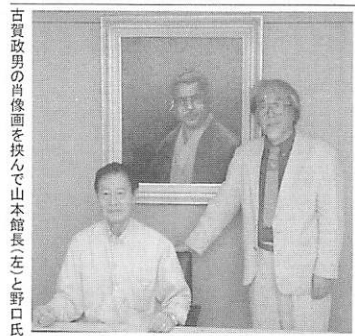
### ▼「ちくごタイムズ」8月27日より

## 東京と大川に同一作品

### 野口氏が古賀政男肖像画おくる

### 一目ぼれの山本氏が懇願

大川市大野島の洋画家、野口忠行さん(65)が、東京都渋谷区代々木上原の古賀政男音楽博物館(山本太晴館長)に、古賀政男の肖像画(20号の油彩)を寄贈した。数十年前、古賀政男と生活を共にした山本館長は「先生のすべてを知っている私が、これほど古賀先生の内面を鋭く表現した作品に初めて出会った」と感激した様子だった。野口さんは、古賀政男の生誕100年を記念して、その肖像画を市に寄贈したいと語ったという。野口さんは、昨年初めて肖像画を描くにあたって、古賀政男の音楽祭で来川して同記念館で肖像画を見た山本氏が強いショックを受けたこと、同じ絵を描いてくれるよう野口さんに懇願。野口さんが上京して約束を果たした。その際、野口さんは古賀政男の肖像画を市に寄贈したいと語ったという。野口さんは、昨年初めて肖像画を描くにあたって、古賀政男の音楽祭で来川して同記念館で肖像画を見た山本氏が強いショックを受けたこと、同じ絵を描いてくれるよう野口さんに懇願。野口さんが上京して約束を果たした。その際、野口さんは古賀政男の肖像画を市に寄贈したいと語ったという。



古賀政男の肖像画を携えて山本館長(左)と野口氏

と冗談を言うほどの、そっくりの出来ばえ。同一の作品が東京と大川の2つの記念館に存在することになった。「しばらくは館長室で肖像といっしょにいた」と山本館長。その後、一般公開する。山本氏は女優・山本富士子の夫。「山本富士子さん直筆のハンカチや夫婦湯呑みなどを頂いて帰りました」と野口さん。

- 北原鹿次郎 (1892~1939) の生きた時代の同伴者としては、この筑後地域には10歳年上青木繁(久留米市・洋南)、5歳年下東京高等工業学校で教師としての同僚である豊田勝秋(久留米市・金国工業)等がいた。5歳年下の福永館室(福岡市・本郷)とは、大正、昭和の時代、富田美術院展覧会(帝展)、や再興日本美術院展覧会(院展)等に共に入選を重ねていた。
- 北原の没後66年の今、三浦郡大木町の故郷に置かれた彼の語る人は少ない。彼の作品として人の目にふれるのは、大木中学校正面玄関にある等身を超える木彫「鬱念ふ皇子」のみである。彼は故郷の人々から誇りを預けしきり「失笑さん」(鏡タシ)と呼ばれていた。
- この度、地元で遺された作品を集めてみると、友人や家族や支援者に請われるままに制作した慶しあふれる作品と、帝展、院展等に出品した木彫では、特に強い情感表現を表現している作品とがある。彼の作家としての苦闘は、最後の作品「太陽を射る」に結晶されている。遺された作品のみがその作家を語っている。



交通のご案内

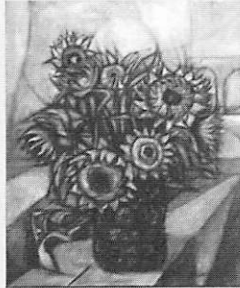
大川市立清力美術館  
〒831-0008 大川市大字鏡ヶ江77番地16  
TEL: FAX 0944-86-6700

大川市新市長（伝習館 高18回）誕生！  
▼市報「おおかわ」2005年8月1日号より



▼市報「おおかわ」2005年9月1日号より

## 読上美術館



◆第28回◆  
作者 田中明代(たなかあきよ)  
作品 「ひまわり」 油彩・画布 F20号

## 大川市立清力美術館

大川市大字鐘ヶ江77番地16 ☎0944-86-6700  
開館時間 9時～17時(入館は16時30分まで)  
休館日 毎週月曜日(休日の場合はその翌日)、および年末年始  
入館料 無料

◎大川市立清力美術館所蔵 作品・作者紹介

田中明代…昭和20年柳川市生まれ。小学校4年生から美術部で活動を始め、中学校の美術部で、油絵、多色版画などを体験。伝習館高校で書道部に入学、部長となるが、2年生の途中で再度美術を始めると決心する。福岡教育大学教育学部美術科で教師をめざし2年生より彫塑を中心に制作。昭和46年に美術教師となり、平成16年3月退職。現在は油絵を中心に制作。大川市、柳川市の総合美術展を中心に出品中。

作者のコメント…日頃はなかなか制作ができず、夏休みだけ集中して制作。旅行にも行けず、花を中心とした静物画を描いていました。ひまわりはその中の一点です。種子から育て、みごとに咲いた花への感謝の気持ちです。と同時に1か月前実父をなくし、その悲しみをこらえて描きました。色が暗いのはそのせいかもしれません。

●大川市の情報をラジオで放送しています。「大川市だより」毎週木曜日、11時5分～ NBCラジオ(1458kHz)

▲「ちくごタイムズ」  
2005年10月22日号より

## 三柱神社再建 4億5千万円 募金活動前に集まり始めた善意

柳川 近く全国に呼びかけ

柳川青年会議所が、柳川青年会議所、三柱町高畑の三柱神社を再建するために、募金活動を行っている。柳川青年会議所、三柱町高畑の三柱神社を再建するために、募金活動を行っている。柳川青年会議所、三柱町高畑の三柱神社を再建するために、募金活動を行っている。

正堂・開千代のごまをまつる同神社は1826年(文政9)代遷した。三柱町高畑の三柱神社を再建するために、募金活動を行っている。柳川青年会議所、三柱町高畑の三柱神社を再建するために、募金活動を行っている。

奉賛会は近く「復興委員会」を立ち上げ、全国的に寄付を求めていく。目標額は4億5千万円。「社会的には、すでに多くの人で柳川に

身は多い。三柱神社の復興を知らない人も多々ある」と三柱町会長は、三柱町高畑地区と柳川地区をまたいで、100万円を目標として

▼「ちくごタイムズ」10月1日号より

## 昭和30年がよみがえる映画2本からたちの花

### 妻の日の愛のかたみに

16日 柳川「水の郷」

柳川市「水の郷」から(新谷一廣会長)企画の柳川名作映画劇場が16日、水の郷である。ともに柳川でロケが行われた「からたちの花」(長谷健原作)と「妻の日の愛のかたみに」(池上三重子原作)の2本立てで、料金は当日1000円、前売800円。

北原白秋の多感な少年時代を小説にした「からたちの花」は、長谷健が昭和29年、東京日日新聞連載。同年秋、日活が映画化し、親光柳川の扉を開いた。名物の川下りもこの映画から生まれたという。

主人公の白秋役は北原隆。「妻の日の愛のかたみに」の三重子は大木町生まれ。柳川の両開小など先生を勤めた。結婚して柳川市内に住したテレビドラマが全

むよようになって4年目の昭和29年、リウマチに倒れ、夫を説得して離婚。歌集「妻の日の愛のかたみに」を出版する。この歌集を元にしたテレビドラマが全

2本とも、昭和30年ごろの文化隆盛の柳川がよみがえる。「年配の人にも、若い人にも、ぜひ観てほしい」と水の郷から、0944-75-6200。

国に大きな反響を呼び、大映が映画化した。主人公の三重子役は若尾文子。

▼市報「やながわ」2005年8月15日号より

## 大相撲の力士・琴奨菊関が観光大使に就任

### 土俵で勝って柳川をPR

柳川市出身の大相撲の力士、琴奨菊関(本名、松次一弘・21歳)が7月29日、柳川観光大使に就任した。

観光大使は、市のイメージを高め、観光に関する発言や提言を聞くために設置されているもので、今年5月の演歌歌手の北山たけしさんに続き、琴奨菊関は17人目の大使に就任した。

琴奨菊関は徳島出身で身長178センチ、体重100キロ。先月の名古屋場所では前頭9枚目を出場し、8勝7敗で勝ち上がった。

琴奨菊関が相撲を始めたのは東宮小学校に通っていた3年生のころから。中卒から高知県の新築建設中高等学校に相撲部入り、高校時代に世界ジュニア選手権無差別級で優勝するや、冠を獲得。卒業後は香取ケセキ建設に入社し平成14年に初主筆を飾り、昨年7月に前頭10枚目、今年1月場所から前頭16枚目に入籍し、いったん十両に降格した5月場所では13勝2敗で十両復帰。5月場所所で

は再入籍し10勝8敗で勝ちました。市役所柳川庁舎で行われた観光大使の委嘱状の交付式で、柳川市長は、「名古屋場所で大活躍のすばらしい成績でした。連日のテレビで全国に柳川のPRをしてもらいました。次は土俵へ、そして橋本へ呼びつめてほしいです。今後も力士のためにがんばってください」と激励しました。

琴奨菊関は、観光大使の委嘱状と大使の名刺を市長から受け取り、「これまでやってこれたのも、たくさんの人たちを支えられたからです。相撲を通じて柳川のPRに貢献していきます。自分のために、少しでも柳川の発展に貢献できるよう頑張ります」と決意を述べました。

▲後援会や地元の住民などが見守る中、石田市長から観光大使のたすきをかけてもらう琴奨菊関

刊 行 案 内

① 「霧雨の降る街では…」

石宮 綜

本名 石橋 聖子

高52回 (平成13)

●文芸社3月の新刊●

霧雨の降る街では…  
Kirisame no furu machi de ha

Sou Ikimiya  
石宮 綜

世界征服を目論む「悪」デーモン VS 美少女エリイナハンサム探偵美堂

カゲロウ 血石をめぐる争い、果たして勝つのは!?

22歳の女子大生が描く、異色のファンタジー小説誕生!

「今って狂ってる時代だよ。動物同士をくっつけて合成獣っていいものを飼ってみたり、人を強くなるためだかなんだか知らないけど、強化獣なんてものをしたりするんだもの」

「でも、そうしないといけないのよ。だって今は危険なんですよ。人は生きるために自分たちを守る手段を生み出しているだけだわ。ねえ、エリイナ、そう思うでしょ?」

「私は……」エリイナは返答に困った。

「……わからないわ、そんなの。だって私、かかわったことないから」

—第一章 黒い天使と子犬と陰謀野郎 より—

四六判・並製・304頁 定価1,365円(税込み)

△文芸社 東京都新宿区新宿1-10-1 文芸社 〇左記注文書にてお近くの書店でご注文下さい。〇ブックサービス(編0125-25-6625、携帯・PHSからはTEL03-5369-2299 FAX03-5369-3066) 〇左記注文書にてお近くの書店でご注文下さい。〇ブックサービス(編0125-25-6625、携帯・PHSからはTEL03-5369-2299 FAX03-5369-3066) 〇インターネット("yahoo"のショッピング等)からもご注文頂けます。

② 小冊子(私家版)「白雲なびく」

石照 夫

本名 石川 輝雄

(中56回)

初出『女界灘』  
第6号 2003.11.15

石 照 夫

白雲なびく

③ 「健康の結論」 17年6月刊

④ 「病気になるない生き方」 17年7月刊

新谷弘実 高3回

健康の結論

「胃腸は語る」ゴールド篇

新谷弘実  
Shinya Hiromi

米国アトキーン・フインシュタイン 医科大学教授  
ペネシオニエンゼン研究所所長兼部長

病気になるない生き方

ミラクル・エンザイムが寿命を決める

新谷弘実

全米ナンバーワンの胃腸内視鏡外科医が教える

太く、長く、生きる方法。

医学が進歩しているのに、病気が増えるのはなぜだろう?

サンマーク出版 定価=本体1600円+税

新谷弘実  
Shinya Hiromi

◎世界で初めて大腸内視鏡によるポリープ切除に成功し、日本で30万人以上の胃腸内視鏡検査と10万例以上のポリペктоミーを行っているこの分野の第一人者。

◎1935年福岡県柳川市生まれ。順天堂大学医学部卒業後渡米し、胃腸内視鏡学のバイオニアとして活躍。現在アルバート・アインシュタイン医科大学外科教授およびペネシオニエンゼン研究所内視鏡部長。日本では、元赤坂胃腸クリニック(前田病院内)、半蔵門胃腸クリニック等の顧問などを兼任し、診療・治療を行っている。

◎著書に「コロノスコピー」(英語版・日本語版ともに医学書院刊)、「胃腸は語る～胃相編からみた健康・長寿法～」[「胃腸は語る」食卓篇「レシピ集」](弘文堂)、「「腸」の健康革命～「コーヒー・エネマ」(腸内洗浄)が病気を予防する!～」(日本医療企画)などがある。

◎日米での診療・後進指導のかたわら、音楽や美術の愛好家・スポンサーとしても知られ、スポーツに親しみ、また奨学金を創設するなど、幅広い社会活動も行っている。2004年12月、アメリカ内視鏡学会(ASGE)より長年の貢献を讃えられ表彰された。

# 伝えておきたい ことども

「伝習館75周年記念誌より」

## 私立県立両伝習館に 関する思い出の事ども

伝習館初代館長 立花政樹

谷川伝習館長より、今度伝習館史を編纂する故、自分が初代の県立中学伝習館長であったので、何か書くように依頼があった。しかし、殆んど半世紀に近い昔の事で何と云ってまとまった記憶が無いけれども縁故が縁故だから、思い出したことを断片的にしたたむることとする。公立の橘蔭館が何故か、廃止ときまつた以上、それでは柳河の青少年は、甚だ気の毒なる境地に置かることになる故、現伯爵の御先代大量公は、これら子弟を痛く憫然に思はれ、御一手にて私立尋常中学伝習館を設立せられた。

自分は明治二十四年七月、東大卒業後、山口高等中学校に奉職してみたが、翌二十五年に伯爵家々扶十時嵩君山口に向われ、自分を柳河にもらって帰りたしと、山高の校長に相談せられたるに、同校長は伯爵家の為とあらば引留むること能はず、とて自分の解任に同意し、後任の決定を待つて、同年十月柳河に帰り、四月二十五日附にて伯爵より館長兼教員委員の辞令を受けた。橘蔭館の生徒は、そのまま伝習館の生徒となり、教員の大部分は居残られたが、自分が着任までは池辺

老先生が館長の事務を処理して居られた。その当時には自分の父の先輩や友人が沢山おられ、自分が泣き虫、鼻垂れであった時代を熟知せられているので、二十八歳の壮年でありながら、何だか気後れする心持ちであったが、ひつきょう此等先輩の誘掖指導のお蔭で、先づ大過なく勤務ができた。

私立学校を県立に引き直すには、県庁の了解もさることながら、県会議員に対する運動が最必要になるを以て、明治二十六年には度々福岡に出張したが、柳河議員の尽力により存外早目に県立となり、二十七年一月二十六日附、県庁の辞令を以て、然るに翌二十八年一月十七日附内閣総理大臣より伝習館長任命の辞令と、昨年と同様の俸給に関する県庁の辞令とが来た。これが中学校長奏任待遇の初め頃なりしか。しかし何等待遇とは内閣の辞令に、記載あり。又、文部省よりの辞令はなかった。

当時生徒の気風は全体より観れば、素朴甚だ愛すべしと、申して宜しきようであった。しかし、かつて他県の或る学校の生徒と相互往来、演説会等を開催したる結果、人間の人間たるは精神の修養にあり、学芸の修得は末技に属すと称し、自己の嫌ひな学科の時間には欠席し、自由とわがままとを混同し、規律規則を蔑視するような気風が、なお一部に残存しておつて、制禦には多少の困難もあつた。或る先生が教室より飛んで来て、教師が生徒を叱ることは通常であることなれども逆に教師が生徒に叱らるるとは驚くの外なし。此の如き学校には到底勤務する

こと出来ぬ故、早速辞職したしと申し出られたが、漸くなだめて勤続せしめたこともあつた。

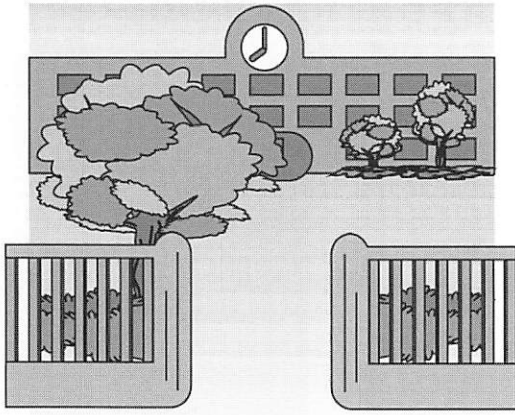
私立伝習館の卒業生は、明治二十六年に唯一回のみであったが、私立中学校卒業では判任文官に任用せらるる資格がないから、二十七年に県立となるや、県立の五年級に編入してもらいたしと、私立時代の卒業生の中より要求もあつたけれども、元老連の反対のため許可ができなかった。よつて、私立伝習館の卒業か、県立伝習館の卒業か、あいまいの卒業証明書を書き換へて、県立伝習館長の名義で出したことも多少あつた。実は、私立時代の卒業生中の希望者を以て、五年級内に別に一組編成し、教員のてすきを利用して英・漢・数の三科目だけを教授し、一ケ年後、県立中学卒業証書を授与することを断行し得ざりし、自分の腑甲斐なさを後に痛嘆した。

明治二十六年九月より、私立伝習館の五年生となりし連中は、判任文官任用令にある資格を得るため、他の県立中学に転校せんと思ひ立ち、自分も深く同情して種々交渉を試みたが、四年級には転校を許すも、五年級に編入することは謝絶するとの挨拶あり、又、或る一学校の如きは、五年級に転校を許すが、交換条件として、自分に一週三回英語の教授に向きくれとの申し出もあつたが、これは到底実行できぬことであるので、学校と学校との交渉はそのままとなり、私立伝習館の五年生は思い思いに転校をした。然るに、翌年一月には県立となつたので、転校をしたものは、つまらぬことをした



次第となった。この五年生の残留者が明治二十七年、県立尋常中学伝習館第一回の卒業生にして、その人数の僅少なる所以も自ら明らかである。県立となつて骨の折れたのは学校の予算で、県会開催の時は当時の県立四中学校、即ち、修猷館、明善校、豊津中学校、及び伝習館の四校長度々福岡に会合し、県会議員間に奔走説得に努め、各自学校予算の増加を計らねばならなかつた。

学校制帽の徽章を如何にすべきか、文字では外観面白からざるのみならず、左右均整のとれぬこと多く、陸軍の星章は結構なれども、これを真似る訳にもいかず、その時思ひ出したるは、乃木將軍と杉浦重剛先生と三人義兄弟と言ふべき間柄なる十時虎雄君が、伝習館の生徒に対して講演せられたる三角の話である。その講話は、帽章制定に直接関係はないけれども、間接には因縁あるを以てそれを



略記すれば、人間は相互円満無事のみを希うては宜しからず、衝突する時は三角の角が相撃つて火の出るように相争ひ、又、和親する時は、三角の辺が互いにびったり付いて一線をなすようでないければならぬ。友かと思へば友でなく、仇かと思へば仇に非らず、といったような、あまいな態度は気節を重んずべき青少年に在つては唾棄すべきものなり云々。この三角の三の字にヒントを得、三才・三綱・三省・三尊等の言葉があるを以て、星章五条のひあしを三条としては如何と、伝習館の書記兼雇教員垣田永雄氏と相談して取りきめたのが、帽章の起源である。

妙な手紙を余儀なく受け取らせられたことがある。その内容は、規則を履行するが如きは官学の幣で、学校はすべから自由であり、クリスチャン的ならざるべからず云々とあり筆者は生徒なるも、勿論無名であつた。宛名は封筒には自分の名でなく、西魚屋町の某と実在せざる人名を記し、却つて差出人が自分で、郵税先払いとなつていた。郵便局で附箋をして、差出人として自分に返戻し来り未納税を徴収したが自分がこれを拒絶するには裁判所まで持ち出し、開封して差出人は自分に非ざることを証明せざるべからずとの事故、その面倒をいとうて不足税を支払ひ開封した。怪しげな手紙だから受け取らぬといつて、突き返へすことをさせぬ巧妙なやりくちに一驚を喫したが、この差出し方は、いたづら好きの父兄に入智慧されたものと思はれる。

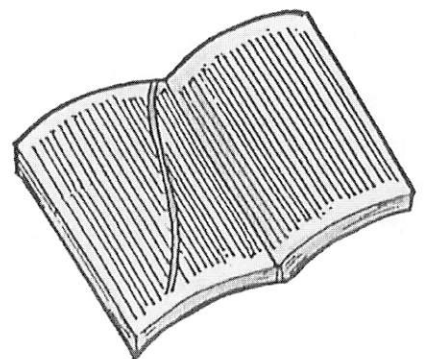
熊本五高在学中の柳河人二名が試験の

末期に病氣となり、帰郷中なるが、英語の試験を受けざれば不合格となり氣の毒の至り故、病氣の容態宜しければ、伝習館に出頭せしめて英語の試験を施行しけるるよう、五高英語の教師フアデル氏より自分に依頼があつた。杓子定規に流れず、生徒の将来を思ひやりたる親切の取り計ひ方なり、と感心した。取りとめのないことを並べまして、謹みておわび致します。

昭和十五年 湘南寄寓七十六叟  
立花政樹

### 帽章について

伝習館の帽章は普通中学校の帽章と甚だしく趣を異にすその起源については、種々の説あり。日清戦役に鬼太尉として有名な十時少佐が初代館長立花政樹先生に、人間はよろしく角あるべし、丸かるべからず、と具申されしに基き、三角の基本形より考案されたりとの説専らなり。しかれども、直接立花館長に問ひ合はせし回答によれば然らず。当時館長は垣田先生と帽章星形は甚だ威厳あつてよし、是に準ずべし、となし、そのまま使用するを得ざれば、五尖を三尖として現在の帽章にせり。斯くせば、智・仁・勇を表現すると、又天・地・人、また君臣・父子・夫婦の三綱を意味するとも解釈によりては極めて意味深長なるものあり、との御回答に接し、その起源を知れり。又、帽子の白線二本は熊本高等学校生徒の白線三本より一本を減じ二本とせり。職員の帽子は白線の代りに金線二本を施せり。然るに金線二本は如何にも千



金丹売りに似たりとて後、白羅紗を地布として黒線二本を用ひしが、これまた執達吏に似たりとて、遂に生徒同様の形式となれり。

### 館旗について

日露戦役当時、全館の職員生徒協力して冗費を省き、一銭の零細なる醸金を持ちより貯蓄して恤兵金として献納せしが三十九年、戦役も終熄して恤兵金も不必要となり、その節貯蓄されたる金七十餘円は最も有意義に使用すべしとなし、協議の結果、館旗製作に意見一致す。

当時の館長加藤常次郎先生、史実に照し、古代紫は大織冠の色にして、日本においては最高位の色彩なればとて、色を古代紫に定めて三越に製作を命じ同三十九年製作せられたるものなり。

尚、旗竿頂上の剣尖には、また歴史的に論拠あり。即ち、柳河藩の馬印は、剣先纏なり。故にこの馬印の剣に擬し、旗竿の先に付くることとなれり。

昭和ひとけた生まれの戦中記

## 『白雲なびく』より

石 照夫こと  
石川輝雄（中56回）

○紹介―編集子  
皆さん、母校の校庭の一角に「学徒動  
員殉難之碑」があるのをご存じだと思  
います。

この碑は、昭和二十年八月七日、大牟  
田の工場地帯が爆撃され、学徒動員中の  
福岡県立中学伝習館の昭和十七年・十八  
年入学生徒のうち十七名が尊い命を落  
とされました。その霊を慰める為に同  
期生の皆さん方が拠出された基金で建立さ  
れたものです。（写真）

戦後六十年の節目に当たり、この未曾  
有の悲しい事件を是非同窓の皆さん方へ  
お伝えしておきたいと思えました。

別掲の「刊行案内」欄で紹介しました  
『白雲なびく』の中に当日の生々しい悲  
惨な状況が活写されており、著者の  
お許しを得て、『白雲なびく』の一部  
を転載致しました。

これは雑誌「玄海灘」第6号（二〇〇  
三年十一月刊）に発表されたものですが、  
当時の読売新聞にもコピーの通り、論評  
されました。中学伝習館入学から終戦の  
日までの出来事を書かれたノンフィクシ  
ョンで、終戦前後の母校の名物教師もそ

のユニークなニックネームで登場しま  
す。いずれ、続編を執筆し刊行したいと  
の著者のご希望もあるそうです。

### 「文中注」

・ラッキョーある教師のニックネーム  
・オタバさん―著者のお兄さんのク  
・戦中独特の言葉―

工場動員、学徒勤労動員、応召兵、挺身  
体、憲兵、空襲警報、焼夷弾、予科練、  
防空壕、―等々については、先輩やご  
親などにお尋ね下さい。

◇ ◇ ◇  
伝習館二年生の工場動員がはじま  
った。

動員先は大牟田の三池製作所と東洋高  
圧の二箇所、初日は入所式で、一旦学校  
に揃ってから西鉄電車に乗り込んだ。普  
段、電車汽車の通学でない柳河町組には  
揃っての乗車が珍しく、今日からの変化  
に興奮気味である。何とも夥しい乗客に  
押しまくられてしまった。明日からはめ  
いめい自宅から七時ぎりぎりの更なる超  
満員の電車を通うのだ。私の二年三組は  
製作所の方だった。入所式の後で身体検  
査があり、血沈とレントゲン検査があっ  
た。私は落とされないと不安になった。  
学徒勤労動員からも外されることは、応  
召兵の即日帰郷みたいに不名誉極まりな  
い。確かに私だけが血沈二十ミリも下が  
っている。レントゲンの診断カードでは  
丙の印が付いている。だが、特に通達は  
なく、そのまま動員の日々に入った。当



## 雑誌から

●玄界灘 6号

石照夫の小説『白雲なびく』は、戦中の旧制中学生の青春群像を描いている。戦時下にも、少年たちが生き生きと輝いていた瞬間は確かにあった。そのリアリティーがさすがしく魅力的なのだ。

主人公は、身長125、6㍉の<こ

## 戦時下、中学生の青春群像

んちよか>少年であるテルオ。母や兄の励ましで、福岡県柳川の中学・伝習館に入学したのは昭和18年。軍隊主義が学校にもあって、体罰にも愛きょうのある名物教師がいた一方、虚弱なテルオに容赦なくピンタを浴びせる教師もいた。球技が休止状況の中、全校マラソン大会で、テルオは<生まれて始めてどん

尻ではな>い体験もする。

戦争は敗色が濃くなり、友人らと川で泳ぎ、ヒルと「格闘」した<中学二年の夏の一日、こんな弾けるような笑いは、もう無くなっていく>。兄も出征し再び帰らなかつた。

ある日、大牟田が白昼に空襲を受け、動員先の工場で学生17人も犠牲に。その中には、性に

ついて語り合った友もいた。みんな、<下駄を鳴らして>、『白雲なびく』で始まる準館歌を歌った仲間だった。それから8日後、戦争は終わった。

72歳で、現在は東京在住の筆者の自伝的な作品である。戦後、15年に及んだ結核の療養について次に書きたいという。（淳）  
（福岡市南区検原2の26の21、西村方）

時のレントゲン間接撮影の集団所見では要注意レベルくらいで見過ごされたのだらう。

三池製作所は伝習館の倍以上の敷地と思われ、各工場の棟も校舎の倍くらいの規模で、騒音と油の臭いに包まれている。私たちは分散して配属された。私と橋本は機械工場の二階、小型施盤の組だった。四、五十代と二十歳以下の工員が殆どで、女子工員も混じっている。二、三十代は軍隊に召集されてしまっているのだ。

私は年配工員の一人について施盤作業を眺めているだけだ。合間に、削られたさまざまな形状の金物を箱に詰めたり、また組長に指示されて、橋本と台車を押しての運搬作業があったりした。私のあまりの小ささは呆れられてばかりいた。笑顔でよく声をかけられることでもあった。橋本は声変わりして背も伸び、小学時代は二番チビだったのに今は十四、五七

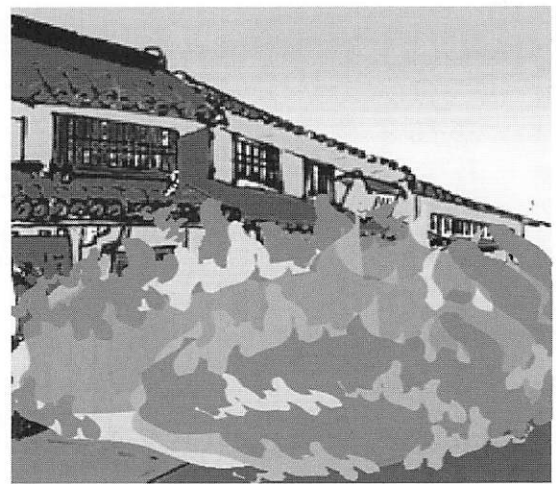


センチも差がある。詰襟の服の首廻りにつける白いセロロイドのカラーを売ってた店があったと、橋本が得意げに伝えて、高石や井口を羨ましがらせた。伝習館の制帽は星の記章に白線二本といわれるが、今の戦闘帽でも、後で白線の結び目をわざとらしく三センチほど垂らす。しこつとる、という言葉がよく使われた。生意気に粋がってる、といった語感で、「あいつはしこつとるばい」と言い合ったが、橋本はまったくしこつていた。襟にカラーをつけるなど登校ではとてもできない服装だが、動員帰りにそんな格好をして見せた。

挺身隊のハルちゃんが向かえ側の施盤から仕事上の質問を仕掛けたりして、年配工員が大声で答える。少し大柄で白い面長のハルちゃんは、私にもよく笑顔で挨拶してくれた。女学校を出て一、二年だろう。あるとき、通路をよぎりながら、年配工員が少しおどけて腰を振り、曲尺をひらひらさせながら、ハルちゃんに答えていると、憲兵が通りかかって咎めた。問答無用で年配の小父さんのビンタを打った。

三池製作所には工作兵もいて、憲兵も巡回している。色黒の憲兵が立ち去ると、五十がらみの気弱な半笑いの組長が年配工を慰めた。ただ憲兵には叶わないとばかりやいている。緊張しているハルちゃんのと表情が私には気になって仕方なかった。

動員の日々が過ぎ、四月になって、そのまま三年生に進級した。沖繩戦が始まっている。山も形も変えるほどの爆撃、艦砲射撃が繰り返され、米軍は大挙上陸



した。おタボさんからは那覇局気付イ一五六と記した葉書が三通来ていたが、それきり切れてしまった。

季節は夏へ動いていた。空襲警報の数がめっきり増えた。夜は気にせず寝ているのだが、ある晩、「空が真っ赤に燃えるよ」と母に起こされた。南の空が夕焼けの残照のように見える。音もない沈黙の夜空に紅い反射が南の一带だけに広がっている。

「大牟田がどんどん燃えよるげな」

近所の人たちの声を母が繰り返す。とうとう東京みたいに大規模な焼夷弾攻撃を受けているのだろうか。

翌朝、普通に動けば三十分で届く電車が二時間もかかって、結局最期は線路伝

いに歩いた。大牟田の栄町の駅から見渡しても一帯が焼け落ちていた。瓦が散乱し、看板や柱などが地面に重なって燻ぶっている。折れ曲がった電柱、まだあちこち煙が出ていて焦げくさい臭いが立ち込めている。一晩で街が一変している。戦争にやられるとはこういうことなのか、全身が引き締まる思いだ。連れ立っていた高石、橋本もさすがに口数なく驚いている。

製作所は敷地内の東側を占める弾丸工場だけ燃えていた。その棟は木造で、焼け落ちた瓦礫の中で大型施盤などの機械類はそのままの形を晒している。機械工場の自分の部署は半数も出勤していなかった。自宅が焼けたのだろうか、年配工のハルちゃんも見えなかった。伝中生徒は弾丸工場の後片づけを手伝えということになり、分散していたのが一所に揃ったが、雨が降り出し、久し振りに昼からは学校に行くことになった。ランキョがさも気を利かしたという口ぶりであった。登校日ははじめの頃は月に一度あったのだが、だんだん間遠うになっていた。

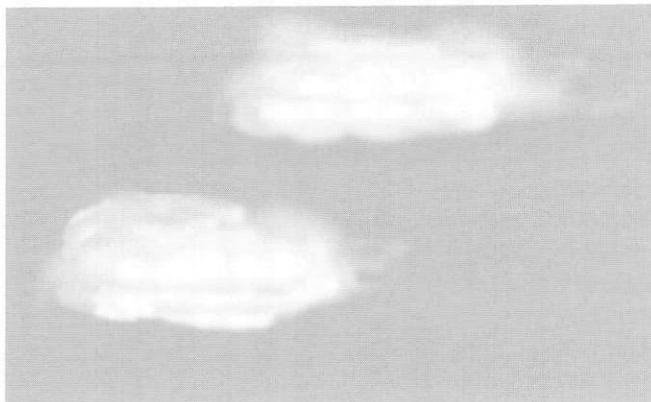
まったく久し振りの教室で、私たちはぼんやりしていた。窓から見えるのだが、在校の一、二年生が、雨が止んだ運動場に集まりだしている。数人の最上級生が指揮を取っている。早速伝令が来て、準備歌の合唱行進を始めるから参加するようにと伝えた。みんな立ち上がりて教室から出かけた。私はそのまま残っていた。超チビの私は下級生の輪のなかに入ることとは気が重かった。高田春樹も井口も残っていた。高石、橋本は「面白くさ」

と出て行った。

指揮の上級生は、羽織袴こそ着けていないが、一層エスカレートしている予科練入隊の見送りムードで、日の丸の扇をかざしている。

——大東亜決戦いよいよ急、いざ立たん、伝中健児、いざ、進め、いざ、白雲なびく始めえ、はつきりとは聞こえてこないが、こんな調子の号令をかけているようだ。白雲なびくと、一斉の歌声が響いてきた。

伝習館館歌（校歌）には、同校出身の北原白秋作詞、山田耕筰作曲の「星座よ輝け 我がこの柳河」の歌詞で始まる正館歌があるが、どうも何人かで組んでいるようなときなど、生徒等には寮歌調の



準館歌のほうが好んで歌われる。一校寮歌の「ああ、玉杯に花うけて」や三校寮歌の気分に通じることなのだろう。特に七校寮歌の「北辰斜めに指すところ」と同じ節で旧くから歌われている

白雲なびく雲仙の  
山崇高の精をとり  
蚊竜潜む有明の  
海雄大の気をうけて  
ここ清境の学び舎に  
齢は移る幾春秋  
（以下八節まで）

指揮の最上級生は、隊列の先頭で、日の丸の扇を上下に煽ぐような所作をしながら後ろ向きに歩いている。行進はそろそろと運動場を回りだした。

「空襲警報の出らんとよかばってんね」井口が言った。彼も私も雨上りの運動場の方をほっとした気持ちで眺めていた。何か長く忘れていた和やかな気分似ている。行進は運動場をゆっくり半周している。

その翌日、私は思いがけなく柳河駅でハルちゃんに声をかけられた。駅舎の影を受けた空き地で、ハルちゃんは二、三個の荷物を置いて立っている。近くに家族がいるような気配だ。

「家、焼けちゃったの」  
私は立ち尽くし、ただ頷いた。ハルちゃんは髪が白い額にほつれ、大きな目でじっと見つめている。

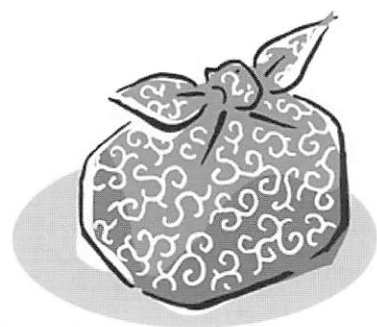
「住むところ、知り合いに頼んでいるの」  
私は、うちに来んですか、とよほど言

いたかったのだが、さすがに口にはならない。

「行ってらっしゃい」  
ハルちゃんは少し笑顔を見せた。私は強く後に引かれる思いで改札に急ぐ人の流れになった。電車に乗っても気になってたまらない。ハルちゃんたちの住むところ、柳河で見つかるだろうか。私は確に受け答えもできなかった。大変ですね、とやっと小さく言えただけだ。

製作所では、弾丸工場の焼け跡の片づけが私たちの日課になった。機械類は手を入れて多少は使えるらしく、渡瀬の疎開工場へ運ぶ作業がされている。空襲が日常的になり、電車の立ち往生も当たり前になった。三年生である私たちの同級からも、『予科練』に入隊する者が出始めた。

八月七日、朝から夏空に雲一つない。この日、疎開機械の運搬で渡瀬に行く予定が延期になり、私たち十名ほどの班



は、半分焼け残った木の小屋で呑気に雑談していた。警報は出ていたが、誰も気にしない。弁当も早々と食べてしまった。正午少し前、私は一人で水飲み場に木の小屋を離れた。五十メートルほど離れた水飲み場にいると、大きな爆撃音がした。地響きがして近いと思った。周りの工具たちもあわてている。私は本能的に仲間がいる木の小屋へ駆け戻った。井口と高田春樹が座ったままで「誰でんうろたえて防空壕に入ったぞ」と笑った。気が付かなかつたが、高石も木材の影に昼寝の格好で仰臥していたのだ。木の小屋は敷地の東端で近く塀があり、塀際に一つ土を盛ったごく普通の防空壕があった。高射砲の発射音が連続している。私は小屋の庇越しに空を見上げていたが、思わず目を凝らした。青空の輝きの中で白い光の結晶が一点、赤い糸を引きながらゆっくり舞っている。火の糸は三つに分かれ、はるかな空の高みで火のついたマッチの棒ほどに見え、正となって浮いている。どこかでバンザイと叫んでいる。紛れもなく火を噴き空中分解している敵機なのだ。私は釣られて道へ飛び出しバンザイを連呼した。無意識に井口、高田と離れたのだ。数秒後、凄まじい音響に包まれ身を伏せた。木の小屋からの道脇に大きなドラム缶が二つあったが、その陰に身を伏せた格好だった。ふと顔を上げると、五メートル先の防空壕の中から一人強く手を招いた。反射的に走り込んで行った。一畳ほどの暗がりに先にうろたえたくの一瞬だった。眼の深い奥まで火柱

が走った。耳がシューンと鳴って、突然の闇の中で、世界が化石のように停止している。

長い時間がたったようだが、事実は何秒足らずだと思ふ。

「やられたぞ」と誰かが言った。私が飛び込んだばかりの入り口が崩れ塞がっている。「這い出んと窒息するぞ」橋本の声だ。もさもさ動き出し、一人ずつ外へ這い出した。後から飛び込んだ私の上を這い出る感じで、結局しんがりでは外へ出た。あのドラム缶が火を噴き、木の小屋が崩れ落ち、道へ出かかった位置で高田が仰向けに倒れている。皆の駆けている後を追って私も足が止まらない。高田を助けねばと思ふが足が止まらない。前方に腕章巻いた係長ら二、三人がいて

腕をぐるぐる廻しながら「待避、待避」と叫んでいる。

「高田がやられてますっ」私は後を示しながら叫んだ。係長が大きく頷いた。

「よしっ、生徒は待避」と叫んだ。

工員学校の小広場にドーム状の大防空壕があった。ドームは迷彩付きで、大勢がそこを指して走っている。さっき私が水を飲んだ付近だ。コンクリート製の半地下で、階段を三、四段下りかけた入り口で満杯に詰まっている。後からも次々重なってきて、入れ、入れ、と怒鳴っている。また、凄いい音響がとどろいた。反射的に人らは中へ詰まっていく。キーンという落下音の度に恐怖で縮み上がった奥へ詰まりこむのだ。私もたちまち内部まで押し込まれている。すし詰めの中で、心臓が止まるような落下音が恐怖を繰り返す。轟音と地響きが続く。このまま閉じ込められ、死ぬだろうか、ふと思つた。

ようやく爆撃が一時止まったように感じられた。暫らくして場外退避と伝達され、壕から溢れるような人の流れは工場の外へと走り出した。流れの中で私は橋本と走っていた。ふと、気が付くと、高石がびっこを引きながら懸命に追っかけている。三人はひたすら脇道へ逸れ田んぼの方へと走った。爆撃の再開が怖くて、早く集団の流れから外れたかった。

青い田んぼが広がる畦道でようやく腰を下ろした。高石は木の小屋に残っていたのだが、寝ていたので半下敷きになったが奇跡的に爆弾の破片から免れた。井口の安否を聞くと分からないという。後

で判明したのだが、井口は即死状態で、高田は救護所まで意識があり、立石先生に看取られながら息を引き取ったのだった。

「俺どんと、うろたえて防空壕に入ったら、井口も高田もいのち拾いしたとばい」と橋本が言った。

石川が水飲み行つて居なかつたから、待つとつたのかも知れん、とも言つたとき、私は言葉を失つた。あまりにも激しい体験だった。

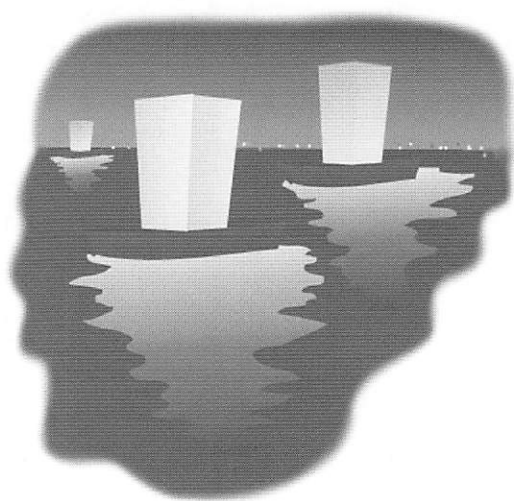
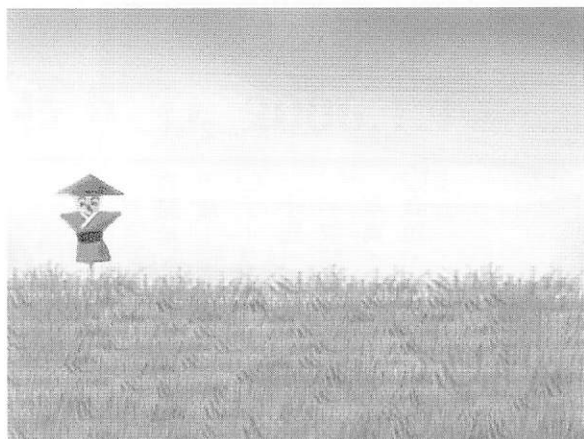
八月七日の、大牟田工場地帯に集中した白昼爆撃では二百名越す死傷者が出た。方々の工場で天井が飛び、鉄筋の壁が崩れ落ち、コンクリート、煉瓦の堆積に一変している。動員学徒の犠牲者も多

かった。伝習館の生徒は十七名が命を落とした。動員先が三池製作所では井口洋、高田春樹、隣の組の古賀良平の三名。東洋高圧では十名、石橋和夫、石橋善雄、古賀篤、古賀和美、小宮博巳、杉野久雄、堤建蔵、長野敦夫、京都謙祐、諸藤光男、三池染料工場所では四年生の、石橋常克、大淵惣次郎、古賀久人、西末男の四名。

みんな折々に「白雲なびく」を歌っていたのだ。ふと、夕暮れの掘割の柳を肩に受けたりして、齢は移る幾春秋……と歌つたのだ。下駄を鳴らして、夢見るような気分だったのだ。

この八日後に戦争は終わっている。

— 後略 —



## 募集中!

1. 表紙絵・表紙用写真
2. 原稿—伝習館OBならダッデンヨカバンモ

○テーマ—自由(同窓会報にふさわしいもの)

小説・随筆・詩・短歌・俳句・川柳、絵画・写真・絵手紙、書など  
○字数制限なし(極力四〇〇字詰め(20×20) 原稿用紙使用)

写真・絵・カット添付可

○表題・投稿者氏名・卒業年度・総字数を書いて下さい。

—原稿送付先—

〒344-0032

春日部市備後東8-8-32

伝習館東京同窓会 小野 善睦 行

☎・FAX 048-735-2431

## 広告募集

チラシ広告

対象—東京同窓会会員向けに製品・商品営業内容をPR、販売したい方。

○チラシ三千部を作成し(フォーム自由)事務局宛(裏表紙参照)送付下さい。会員への会報送付時に同封郵送します。

○広告代金—一件につき弐万円を賛助金として頂きます。

会員の皆様からも、希望業者の方をどしどしご紹介下さい。

## 編集後記

○半年に一回の刊行予定が一回分ずれた。お許しを。

○表紙絵は、たまたまスケッチされた三柱神社の楼門が、その三ヶ月後にまさか焼失するとは夢にも思わず、無心に描かれたもの。写真は焼失直近のものがあると思われるが、絵としては、きっと楼門最後の姿だろう。貴重な絵を有難うございました。

○今号は期せずして昭和十八年に伝習館に入学された先輩方の玉稿が集中した。皆さんは入学は一緒だが、卒業は男子は中学56回卒と高伝1回卒、女子は柳河高女48回卒と、柳河女子高校1回卒に分かれている。戦後の波瀾の時期を過ごされた皆さんである。女学校の方々も確か地元の軍需工場(若い人は判るかな)で授業はそっちのけで働かされたはずである。異常な体験を語り継いで頂きたい。女性の方のご投稿を待望しています。

○更に会報の充実を図りたく、皆様からのご提案、アドバイス、ご投稿をお待ちしています。

○現在の編集委員は次の通りです。

小野 善睦(高2)

内山 秀生(高10)

永倉(跡部)素子(高10)

会長 江崎 正直(高2)

副会長 松永 肅(高5)

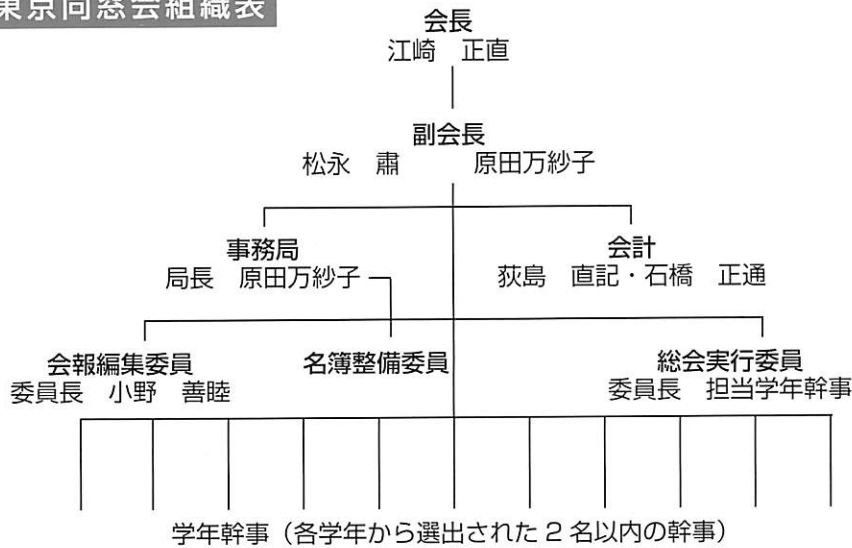
発行責任者 原田(立花)万紗子(高13)

発行責任者 江崎正直

〒156-0043

東京都世田谷区松原3-39-25-801

## 東京同窓会組織表



### 〔内 訳〕

会員数 2152名  
学年数 131学年

中学伝習館	37学年	196名
高等学校伝習館	1学年	13名
併置中学校	2学年	21名
柳河高等女学校	29学年	157名
教員養成科	3学年	12名
柳河女子高等学校	1学年	3名
併置女学校	2学年	8名
伝習館高等学校	56学年	1742名
合計		2152名

平成17年10月31日 現在

## 伝習館東京同窓会学年幹事名簿 平成17年10月現在

卒業年次	氏名	卒業年次	氏名	卒業年次	氏名
中学第48回	宮本弘道	第6回	石橋修	第18回	中島英治
同上	中野貞幸	同上	井上弘子	同上	松藤由朗
中学第49回		同上(会計)	荻島直記	第19回	芹川季代子(立花)
中学第50回		第7回	田中敬之助	第20回	高巢和登
中学第51回	松田 含(星野)	同上	龍 弘道	同上	東 寛治
中学第52回		第8回		第21回	西原正道
中学第53回	古賀和典	第9回	石橋淑子(古沢)	同上	白谷政則
中学第54回	浅山親司	同上	原田光紀	第22回	北原富美男
同上	富重克巳	第10回	内山秀生	第23回	坂本智臣
中学第55回	江崎和夫	同上	永倉素子(跡部)	同上	樋口貴美子(田上)
同上	小泉祐一郎	第11回	北原博	第24回	酒見和平
中学第56回	鬼丸敏男	同上	吉開毅	同上	笹子幸子(川津)
同上	成清良孝	第12回	井上功夫	第25回	
高女第45回	石橋佳香(石橋)	同上	小野アケミ	第26回	
高校第1回	永江政勝	第13回	田中利道	第27回	高田浩一
同上	増尾義勝	同上(会計)	石橋正通	第28回	吉開孝人
第2回	石崎知見	同上(副会長)	原田万紗子(立花)	第29回	
(会長)	江崎正直	第14回	吉田節子(堤)	第30回	
(編集委員長)	小野善睦	同上	永尾俊郎	第31回	
第3回	酒井清行	同上	石橋俊一	第32回	
同上	志牟田徹	第15回		第33回	廣松崇人
第4回	丸勢正夫	第16回	梶島正司	第34回	
同上	白谷正敏	同上	安倍環江(松藤)	第35回	山口英治
第5回	岸 栄洋	同上	水澤昭子(田中)	同上	橋本知彦
(副会長)	松永 肅	第17回	北島文之	第36回	松藤 亘

幹事未選出の学年は至急選出して事務局までご連絡下さい。



伝習館東京同窓会事務局

〒170-0003 東京都豊島区駒込3丁目3-19 千鳥屋方

TEL 03(3915)0865 FAX 03(3918)8139

<http://www.asahi-net.or.jp/~dv4h-fior/densyukan.html>